

大井町観光振興基本計画

二千年つづく里山 大井町の歴史・里山の交流を通じてつながりつづけられるまち



2024(令和 6)年 3 月

大井町

目 次

第1章 観光振興基本計画策定の背景と目的	1
1. 計画策定の趣旨	1
2. これまでの大井町の観光の取り組み	1
3. 計画の位置づけ	3
4. 計画の目標年度	3
第2章 大井町の現状と課題	4
1. 大井町の概況	4
2. 大井町の観光の現状	8
3. 大井町の観光関連の政策の動向	23
4. 大井町を取り巻く観光動向	26
5. 大井町の観光課題	31
第3章 大井町のめざすべき姿	33
1. 大井町観光の基本的考え方	33
2. 大井町の観光振興のめざす姿	34
3. 基本方針	35
4. 数値目標	36
5. 施策体系	41
第4章 基本施策	42
第5章 観光推進体制	64
1. 推進体制	64
2. 進捗管理の仕組み	65
資料編	66
1. 計画策定の経過	66
2. 大井町観光振興基本計画策定委員会（委員名簿）	66

第1章 観光振興基本計画策定の背景と目的

1. 計画策定の趣旨

本町では、2021（令和3）年度にスタートした「大井町第6次総合計画」に基づき、「おおいゆめの里周辺」を中心とする観光資源を有効活用し、官民連携により新たな施設の整備や交流体験事業をはじめとする観光事業の推進を図り、観光・レクリエーション拠点の構築に向け、取り組みを進めることとしています。

その主な取り組みの一つとして、2024（令和6）年度から2030（令和12）年度までを対象期間とする大井町観光振興基本計画（以下、「本計画」という。）を策定します。

2. これまでの大井町の観光の取り組み

本町は、自然豊かな町であるとともに、富士箱根連山、丹沢山塊などの眺望を楽しむことができるのが強みのひとつで、特にひょうたん池から観える富士山は「関東富士見100景」にも選定されています。また、おおいゆめの里やハイキングコース、せせらぎづくり事業などで整備した各種施設、文化財等、観光資源が多数存在するとともに、新たな観光資源として町内の農産物などを活用した特産品づくりも推進してきました。さらに、大井よさこいひょうたん祭や産業まつり、四季の里まつり、お山のひなまつりなど、各種イベントを地域団体等との連携により開催してきました。

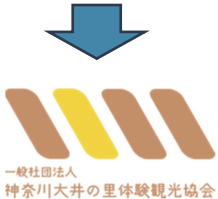
一方、丘陵部に位置する相和地域は、市街化調整区域に位置する中山間地域となっており、高齢化の進行、若者の流出による人口減少によって、担い手が不足し、農地や里山の荒廃が進むなど、地域課題を抱えている状況にありました。そうした中、「おおいゆめの里周辺」を農業体験をはじめとする交流体験の拠点と位置付け、2012（平成24）年には農業体験施設「四季の里」を整備し、農業体験等による交流人口の拡大に向け、取り組みを推進してきました。

さらに、2016（平成28）年度から、相和地区の活性化に向け、地域住民などによる検討部会を立ち上げ、教育旅行などの交流体験を受け入れることで、地域の困りごとを解決する取り組みをスタートさせるとともに、2019（平成31）年3月には地域住民や地域の営農団体等により「（一社）神奈川大井の里体験観光協会」を設立し、本町の観光振興を担う主体として活動を進めてきました。

近年では、教育旅行の受け入れの打診も増えてきた一方で、2020（令和2）年度の新型コロナウイルス感染症の影響により受入状況も一時停滞していましたが、ウィズコロナ・アフターコロナを通じてマイクロツーリズムやワーケーション等多様な旅のスタイルの変化にも対応し、体験型観光の受け入れを進めている状況です。

このような取り組みの経緯から、ハイキングコース等を活用した自然景観や歴史・文化等の魅力の発信、農業体験施設の運営、交流体験事業を担う法人の整備等、ソフト面の体制構築は一定の成果を出してきましたが、町内唯一の温泉宿泊施設や農業体験施設「四季の里」、おおいゆめの里などの観光資源を更に有効活用し、より魅力の高い観光資源として深化させ効果的なPRを行うことで、本町の観光振興のさらなる充実を図ることが求められています。

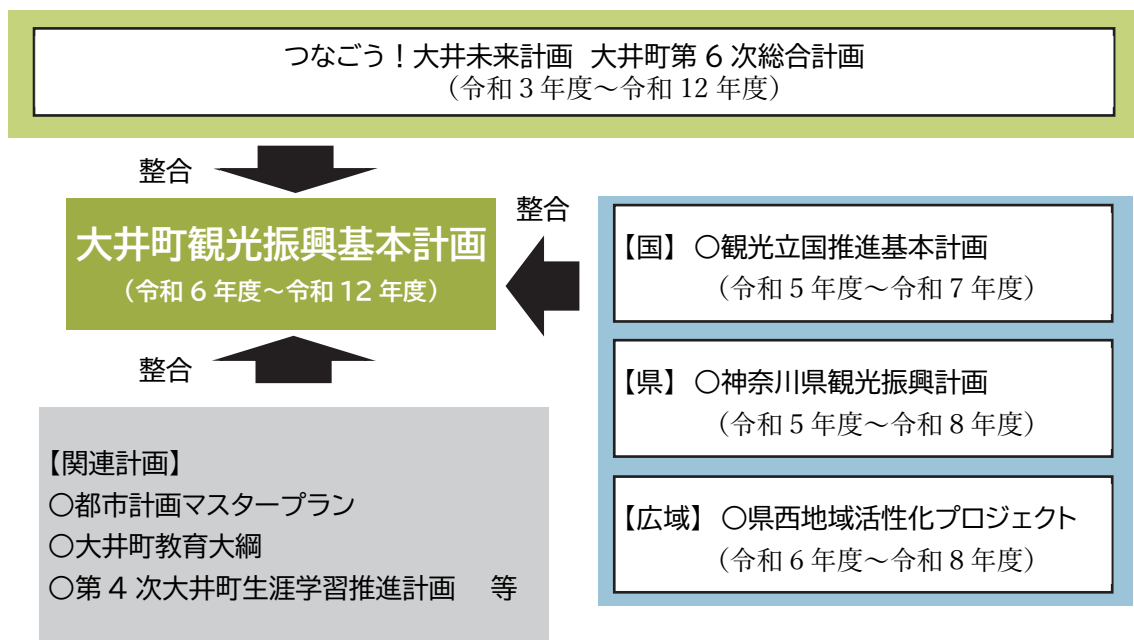
■大井町の観光等に関する歴史年表（2000 年以降）

年	概要
2001	第 4 次総合計画（夢おい 2 1 プラン） 「いこいの里・相和」推進プロジェクト ・相和地域の「里山」的風景、農地・山林などの地域資源を活用し、都市住民との交流による地域活性化を図る。 ・手法として、里山の景観の保全・活用を目的として「おいゆめの里」の整備、グリーンツーリズム推進組織として「ゆめおい体験塾」の立ち上げ
2011	第 5 次総合計画（おいきらめきプラン）前期基本計画 ・農業体験施設「四季の里」開設 
2016	第 5 次総合計画（おいきらめきプラン）後期基本計画 「相和ブランド創出」「体験観光の推進」 ・相和地域において観光拠点となる「おいゆめの里」の整備や農業体験の拠点となる「四季の里」の充実を図る。 ・交流人口の増加や農業の 6 次産業化、商工業との連携による地域の活性化をめざす。 ・相和ブランドの積極的な発信と、さらなる賑わいの創出を図る体験観光の推進 ・「（一社）神奈川大井の里体験観光協会」の設立 ・【人材育成】自然体験指導者養成講習会開始 ・【交流体験事業】体験メニューの開発、試行 ・【民泊事業】民泊試行実施、民泊家庭登録  一般社団法人 神奈川大井の里体験観光協会
2021	第 6 次総合計画つなごう！大井未来計画 「地域特性を活かした産業の創出と魅力の発信」 ・町の地域特性である豊かな自然環境や多様な農作物を活かした 6 次産業化や交流体験事業の推進により観光産業の創出を図る。 ・町の魅力を広く発信するとともに本町への誘客及び関係人口の創出を推進 ⇒さらなる観光事業の推進にあたりおいゆめの里及びその周辺の観光拠点化をめざす。

3. 計画の位置づけ

本計画は、観光の振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための基本的な計画として位置づけるものです。本町の地域性や特性を十分考慮し、各観光行政庁が策定する観光計画等を勘案するとともに、本町の総合計画、都市マスタープラン等の各種計画との整合を図っています。

■本計画と他計画との関係性



4. 計画の目標年度

本計画の計画期間は、2024（令和6）年度から2030（令和12）年度までの7年間です。町の最上位計画である総合計画と整合を図り、適宜見直しをすることとします。

■総合計画と本計画の計画期間

令和 6 年度	7 年度	8 年度	9 年度	10 年度	11 年度	12 年度
大井町第 6 次総合計画 (令和 3 年度から 12 年度までの 10 年計画)						
前期基本計画		後期基本計画				
第 2 次実施計画		第 3 次実施計画			第 4 次実施計画	
大井町観光振興基本計画 (令和 6 年度から 12 年度までの 7 年計画)						

第2章 大井町の現状と課題

1. 大井町の概況

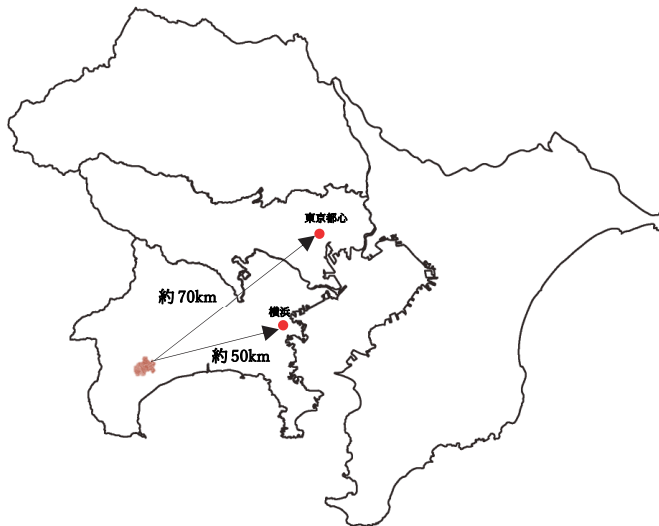
(1) 町の地勢

本町は、神奈川県西部、足柄上郡の東部に位置し、東西 5.62km、南北 5.18km、総面積 14.38 km²を有しています。南は小田原市、西は酒匂川を境として開成町に、北は松田町と秦野市に、東は中井町にそれぞれ接しており、横浜市から約 50km、東京都心からは約 70km の距離にあります。

町を東西に東名高速道路が走り、北西部には大井松田インターチェンジを有するほか、国道 255 号が南北に走り、そのほか県道 6 路線が町内の主要な道路網を形成しています。一方、鉄道は国府津と沼津を結ぶ J R 御殿場線が国道 255 号とほぼ並行するように走り、町内には上大井駅と相模金子駅があります。

地勢的にみると、町の北側には、なだらかな足柄山地の稜線が北西方向に低く連なり、その背後に急峻な丹沢山塊がそびえています。西方には箱根連山の山並みが南北に走り、その稜線のかなたに富士山が位置しています。町の中央よりやや西側には、町を丘陵部と平坦部に二分する国府津・松田断層が相模湾に向かって伸びています。

気候は、上記のような地形により寒冷な北風は遮られ、温暖な南風が入りやすく、比較的温暖です。この結果、地域全体が良好な気象条件に恵まれ、気温、雨量は、全地域にわたり大差がなく、住環境に適し、各種作物や果樹などの栽培も行われ、太陽と水と緑が調和した豊かな自然環境が地域の特徴を形づくっています。

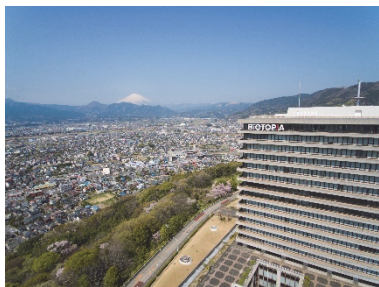
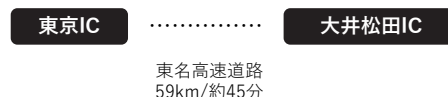


【交通アクセス】

電車



車



BIOTOPIA



せせらぎ散策路



高尾地区の棚田

(2) 町の歴史

本町は縄文時代から人が住んでいた痕跡がみられます。金子台遺跡のストーンサークルは、多数の組石からなる古代のお墓で、縄文時代晩期のものといわれています。



土偶形容器



ストーンサークル

また、中屋敷遺跡から出土した土偶形容器

は、弥生時代の貴重な出土品として国の重要文化財に指定されています。中屋敷遺跡は、近年の調査で南関東最古の炭化米などが発見され、当時の食生活を知る手がかりとして大変注目されています。

やがて稲作の技術が伝わり、相和地域から人々は平地に下り、酒匂川沿いで水田を作って定着したと推察されますが、残念ながら当時の史跡は現存していません。

その後、現在の本町一帯は、鎌倉時代には「大井の庄」と呼ばれ、『吾妻鏡』や『新編相模風土記稿』にもそのことが記されています。鎌倉時代から室町時代にかけて、赤田八幡社や、臨済宗寺院の了義寺、北条時頼ゆかりの寺である最明寺といった現在に残る寺院も建立されています。

江戸時代には、徳川家譜代大久保氏の所領として小田原藩に属しますが、交通の要衝であり、大山信仰が盛んだっところ、小田原から大山をめざす途中の地として親しまれてきました。

明治の廃藩置県により、所轄は小田原県、足柄県、神奈川県と変わりましたが、1878（明治 11）年の郡区町村編成法施行当時は、現在の大字の区域が村として足柄郡 87 か村に属しています。1956（昭和 31）年の町制施行に際し、歴史的に親しみのある呼び名「大井の庄」にちなみ「大井町」と名付けられました。

1970（昭和 45）年、現在のＪＲ御殿場線上大井駅に、駅員が西日除けにひょうたんを植えたことをきっかけとして、上大井駅は「ひょうたん駅」として有名になりました。その後、ひょうたんの町として知られるようになり、現在に至ります。



矢倉沢往還



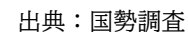
上大井駅のひょうたん

① 人口・世帯数

大井中央土地区画整理事業に伴う新たな市街地の形成により人口は維持されていますが、長期的には少子高齢化が進むとともに人口についても減少傾向になることが推測されるため、人口維持に向けた対策が必要となっています。

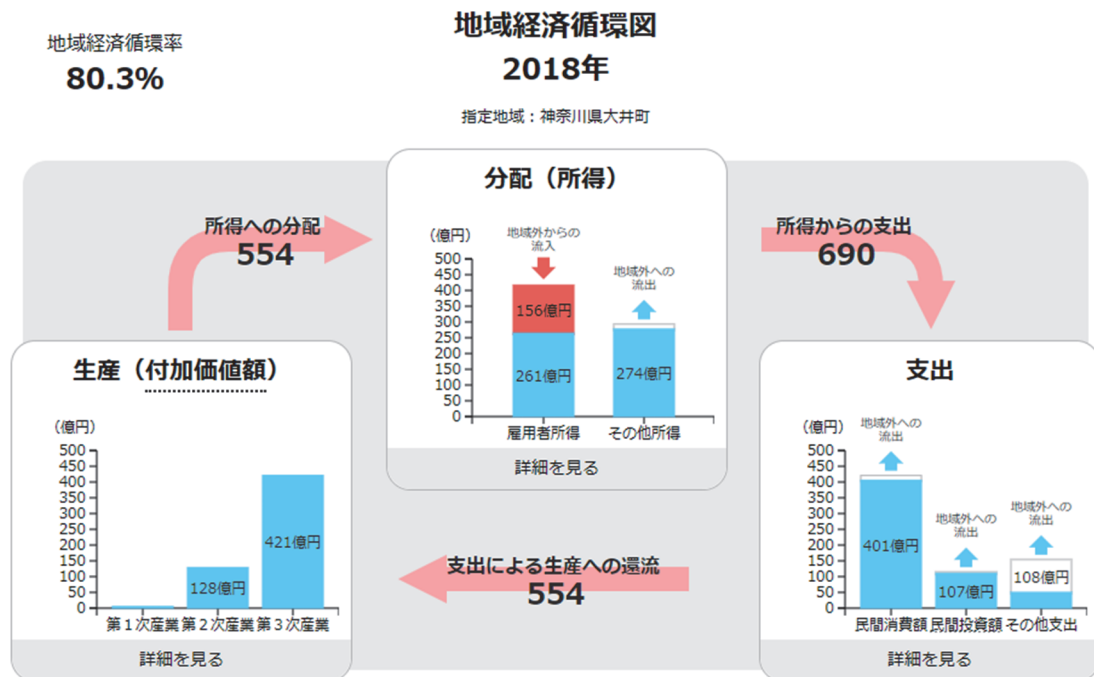


最も多い第3次産業は減少傾向にありますが、全体の67.9%を占めています。



③ 地域経済循環

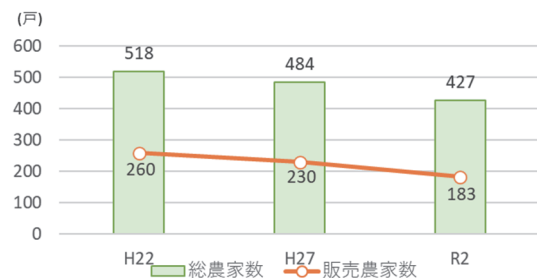
本町の地域経済循環をみると、地域経済循環率は 80.3% となっており、地域内での生産に対して地域外への支出が上回っている状況にあります。地域内での飲食や体験等を促進させることで所得向上や雇用創出等による地域経済の活性化、経済効果の創出が期待できます。



出典：RE S A S（地域経済分析システム）

④ 農家数の推移

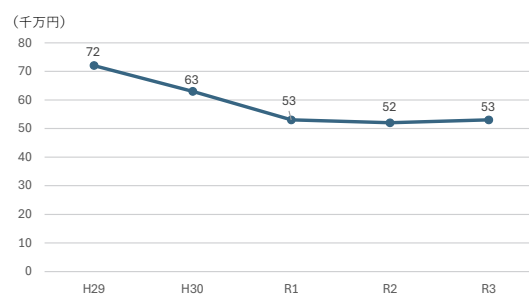
農家数の推移をみると 2010（平成 22）年においては 518、販売農家数 260 だったのが 2015（平成 27）年には総農家数 484、販売農家数 230、2020（令和 2）年には総農家数 427、販売農家数 183 となっており減少傾向にあります。



出典：農林業センサス

⑤ 農業産出額（推計値）

農業産出額（推計値）をみると、2018（平成 30）年の 72 千万円をピークに減少傾向にあり、2021（令和 3）年には 53 千万円となっています。



出典：市町村別農業産出額（推計）

2. 大井町の観光の現状

(1) 大井町の観光資源

① 大井町の観光資源一覧

本町の観光資源一覧を整理しました。四季折々の農産品から歴史に基づく文化財、神社・仏閣、自然資源等豊富な観光資源を有しています。

種類	資源名	概要
特産品・農産物	地酒	石井醸造（創業明治3年・曾我の誉）、井上酒造（創業寛政元年・箱根山）
	農産物	八重桜、たけのこ、梅、稲、いも、みかん、フェイジョア、栗等 ほか
	その他特産品	ひょうたん
文化財	有形文化財	土偶形容器、最明寺の往生要集上中下、三嶋神社の木像薬師如来坐像・古文書・算額、了義寺の杉の板戸絵、余見の宝篋印塔坊村薬師堂の木造薬師如来坐像
	無形文化財	篠窪の麦打唄、田植唄、上大井祭囃子・金手祭ばやし
	史跡・記念物	二階堂屋敷跡、篠窪三嶋社の敷石住居跡・椎の木森、酒匂堰取入口跡、ストーンサークル（配石遺構）、公孫樹（東福院の銀杏）、柳稻荷社の公孫樹（夫婦銀杏）・ムクロジ
神社・仏閣	神社・仏閣	熊野社、了義寺、地福寺、円蔵院、金比羅神社、最明寺、日枝神社、地藏堂、神明社、真福寺、三嶋神社（金手）、大通寺、等覚院、三嶋社（篠窪）、三島院、東福院、三嶋神社（上大井）、八幡社（赤田）
自然資源	動植物・虫等	中流河川に生きる動植物…水生昆虫、アユ、カワムツ、サギ類、カモ類、ツルヨシ、ガマ類 ほか 田んぼ・畑の農作物とそこに生きる動植物…昆虫、カエル類、ツバメ、アブラコウモリ、オモダカ、コナギほか 住宅地に生きる動植物…昆虫、メジロ、ツバメ、ハクビシン、タヌキ、オッタチカタバミほか 丘陵地…昆虫、メジロ、ノスリ、タヌキ、アナグマ、イノシシ、クヌギ、コナラ、イヌシデ、スダジイ、タブノキ、モウソウチク、マダケほか
	地層・岩石等	酒匂川の岩石（富士山系、丹沢山地系、足柄山地系）、酒匂川・川音川による扇状地地形、赤土、湧き水（横井戸：神明社、円蔵院、最明寺）、七滝の玄武岩岩体、火砕流痕（火山豆石含む）、菊川の巨礫（安山岩）

② 主要集客施設

町内には 2012（平成 24）年に開設された「四季の里」含め未病バレービオトピアなど多様な集客施設を有しています。

名称	内容
大井町農業体験施設 四季の里	地域住民と交流しながら、豊かな自然の中で農業やものづくりを体験できる施設。
未病バレー ビオトピア	県西地域活性化プロジェクトの一環として、2018（平成 30）年 4 月に第一生命株式会社大井事業所の跡地に BIOTOPIA がオープンし、地域の産品を活かしたマルシェ、ドッグラン等が整備されるとともに、健康増進に向け未病改善の取り組みが進められている。
ラ・レイエス湘南	2020（令和 2）年に閉業となった「いこいの村あしがら」をリノベーションしてつくられた surf village（サーフヴィレッジ）。人工サーフィン場やドッグランホテルなど
大井松田乗馬クラブ	1972（昭和 47）年の設立以来、馬術協議会で多数の優勝人馬を輩出している、乗馬体験も可能な施設。
ひかりゴルフパーク	日の出から 23 時迄楽しめるゴルフ練習場。バンカー場、プライベート練習場など設備が充実

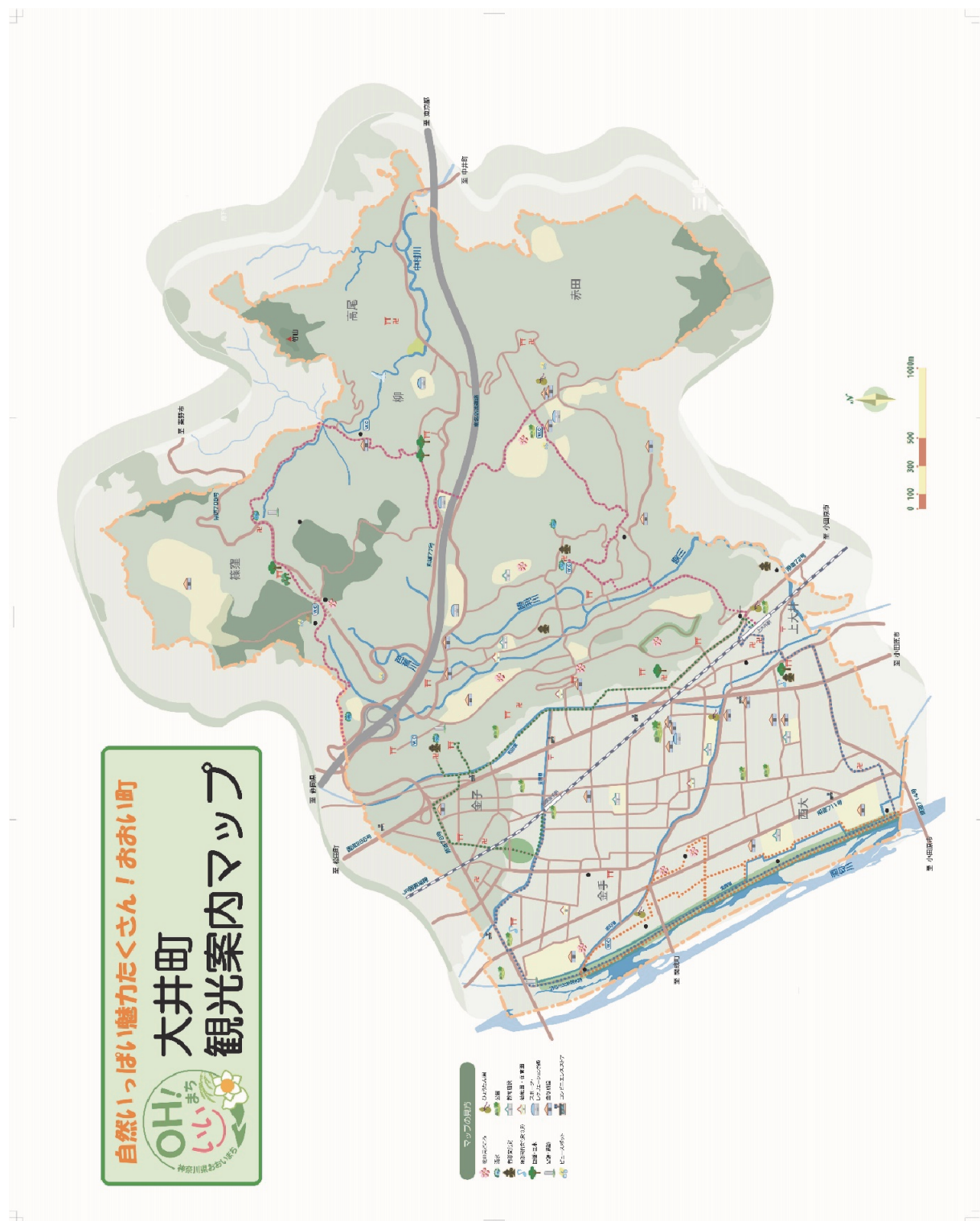
③ 大井町のまつり・イベント

町内では 1 月の産業まつりから 12 月のみかんまつりまで年間を通して様々なまつり・イベントが開催されています。特に 8 月の「大井よさこいひょうたん祭」は町内最大のイベントとして延べ 2 万人以上の来訪者が訪れるイベントとなっています。

時期	名称	内容
1 月	大井町産業まつり	町の農業や商工業を広く紹介するイベント。農産物品評会に出品された町内の農産物が一般公開される。
2 月	里山花まつり	早咲き桜と足柄平野、富士山の眺望を鑑賞しながら楽しむ春祭り
3 月	お山のひなまつり	郷土資料館内で開催される大小様々な人形およそ 550 点が展示される。
6 月	。いもまつり夏	四季の里まつりの 1 つ。じゃがいもの収穫をメインとした農業体験イベント
8 月	大井よさこいひょうたん祭	多くの子どもたちが参加するダンスフェスティバルと、よさこいひょうたん踊りコンテストがメインの町内最大のイベント
10 月	いもまつり秋	四季の里まつりの 1 つ。さつまいもや里芋の収穫をメインとした農業体験イベント
12 月	みかんまつり	四季の里まつりの 1 つ。みかんの収穫をメインとした農業体験イベント

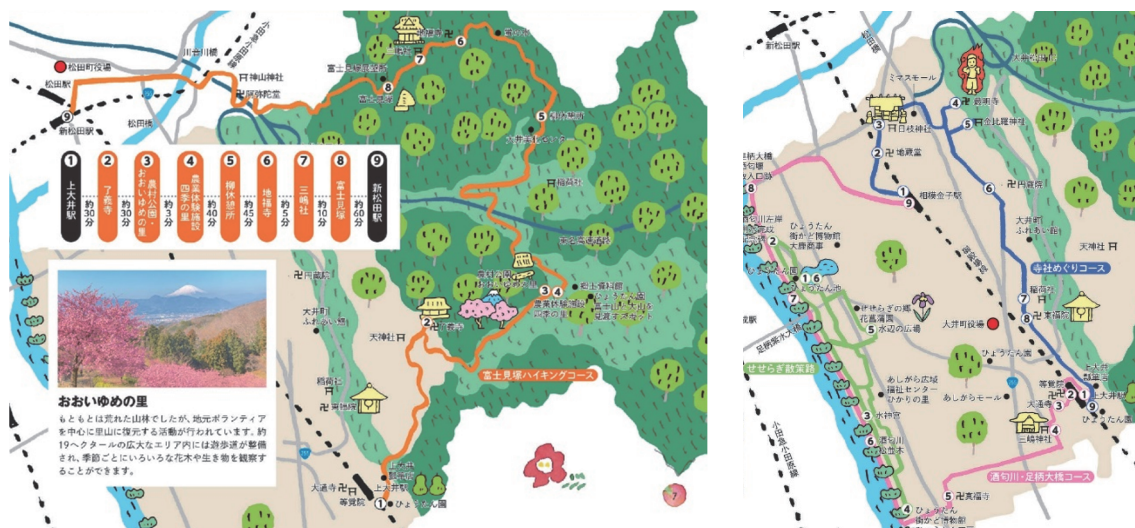
④ 観光資源マップ

本町は豊富な観光資源を有しています。観光案内マップについて以下掲載します。



⑤ ハイキング・ウォーキングコースマップ

本町では自然の魅力を味わうためのハイキングコース・ウォーキングコースを整理しています。2024（令和6）年3月時点では、主に丘陵部を巡る「富士見塚ハイキングコース」、酒匂川周辺を歩く「せせらぎ散策路」「酒匂川・足柄大橋コース」、そして寺社を巡る「寺社めぐりコース」の4つがあり、様々なハイカーに親しまれています。



■ …富士見塚ハイキングコース
 ■ …せせらぎ散策路
 ■ …寺社めぐりコース
 ■ …酒匂川・足柄大橋コース

名称	内容
富士見塚ハイキングコース	上大井駅から「おいゆめの里」、「富士見塚」を通り新松田駅まで向かう山里の丘陵地帯を巡るハイキングコース。富士山・箱根連山の絶景を楽しめるビュースポットが多数点在する。
せせらぎ散策路	「ひょうたん池」を起点に水辺を散策するコース。酒匂川沿いの川のせせらぎをのんびりと眺めることもできる。
寺社めぐりコース	相模金子駅を起点に山野の自然を背景に「日枝神社」、「最明寺」、「東福院」など山のふもとに点在する寺社を訪ね歩き、上大井駅まで歩くコース。寺社の清らかなたたずまいを楽しめる。
酒匂川・足柄大橋コース	上大井駅を起点に酒匂川堤を散策し、相模金子駅まで向かうコース。穏やかな田園地帯や富士・箱根・丹沢山塊の雄大な山並みが広がり、酒匂川の清流や松並木を楽しむことができる。

(2) 大井町の交流体験事業体験プログラム

① 体験プログラム一覧（主要部分掲載）

本町の交流体験活動で実施している主要プログラムについては以下のとおりです。

分類	体験名	内容
農体験	八重桜の花摘み体験	華やかなピンク色の花を摘み取って、桜の塩漬けをつくる体験
	たけのこ掘り体験	たけのこ掘りとアク抜き加工体験
	梅もぎ体験	梅林で、爽やかな緑色の梅の実をもぐ体験。もぎたての実で、梅シロップや梅エキス、梅酒づくりなども楽しめる
	田植え体験	手植えでの田植え体験
	稲刈り体験	鎌を使った稲刈り体験。収穫した稲はハザ掛けをして天日干し。羽釜で炊いた、新米のごはん試食も可能
	みかんの収穫体験	みかんの木、丸ごと一本の総もぎ体験。余すことなく収穫
食体験	季節の竹筒ごはん炊き体験	ノコギリを使って切った竹筒で、春は桜や筍の竹筒ごはん、秋は栗の竹筒ごはんなど、季節の恵みを取り入れた竹筒ごはんを炊くイベント
	季節のジャムづくり体験	梅やみかん、柿など、地元で収穫できる季節の果実を使った手作りジャム。オリジナルのラベルを作成して世界にたったひとつのジャム瓶も作成可能
	季節のアイスづくり体験	ブルーベリーやみかん、キウイなど、地元で収穫できる季節の果実をふんだんに使ったアイスづくり体験
	バウムクーヘンづくり体験	竹を使ったまんまるのバウムクーヘンづくり
	そば打ち体験	地元で丹精込めて作ったそば粉を使ったそば打ち体験
	石窯ピザ焼き体験	地元で収穫した新鮮食材をふんだんに使ったピザ焼き体験
里山体験	竹林の管理体験	荒廃する竹林をノコギリで伐採する体験
	里山の保全体験	地元の皆さんと一緒に草取りやツル切り
自然体験	自然観察	里山にて、五感を使った自然観察
	ハイキング	大井町内に設定された、様々なコースを活用したハイキング
まち歩き	シイノキめぐり	シイ・タブ・カシといった巨木の残る「鎮守の森」を巡るツアー
	どんど焼き体験	年始の伝統行事、どんど焼きに参加
	酒蔵めぐり	古くから美味しい水を使用した酒造りを行っている酒蔵を巡るツアー
創作体験	土偶づくり体験	2,400年前頃、本町で出土した土偶形容器を参考にしたオリジナル土偶づくり

② 広報 PR 活動

プロモーション活動にあたり、地域の魅力を伝える観光ガイドブック「Active おおい」を 2021（令和 3）年度に作成し、ハイキングコース・ウォーキングコースや、体験プログラム、飲食店などの紹介を進めています。



観光ガイドブック

③ 自然体験活動指導者（NEAL リーダー）の養成

交流体験受入地域となるための人材育成として、救急蘇生法や安全管理・体験プログラムづくりを学ぶ講習会を毎年実施しています。受講者全員が、NEAL リーダー（自然体験活動指導者）、及び L.S.F.A.（Life Supporting First Aid = 応急手当）認定といった資格を取得し、取得後は体験プログラムのガイドとして、プログラムの企画作りから運営まで（一社）神奈川大井の里体験観光協会と一緒に取り組んでいます。2016（平成 28）年度から講習会を開催しており、100 人を超える自然体験活動指導者が養成されています。

④ 交流体験事業の受入状況

（一社）神奈川大井の里体験観光協会では前頁に記載されている四季折々の主要な体験プログラムを実施するとともに、年末のみかんの総もぎでは約 1,000 人の誘客に成功しており、2022（令和 4）年度には延べ約 2,500 人を誘客しました。川崎市・横浜市等からの家族連れやファミリー層等誘客もみられており、新たな観光客の獲得に成功しています。他にもワーケーション事業など時代のニーズを踏まえた交流体験プログラムを展開しており、本町の観光振興の主翼を担っています。

その他「田んぼ育成会」、「相和そばの会」、「棚田保存会」、「炭焼きの会」なども交流体験の受け入れを実施しています。

⑤ 未病事業の推進（BIOTOPIA）

県西地域の未病改善拠点として、BIOTOPIA が 2018（平成 30）年 4 月にオープンしました。「未病」をテーマとして、「食」・「運動」・「癒し」をコンセプトとして、レストランでの食の提供、森林セラピーなど各種体験を提供しています。

【未病とは】

健康と病気を 2 つの明確に分けられる概念として捉えるのではなく、心身の状態は健康と病気の間を連続的に変化するものとして捉え、この

すべての変化の過程をあらわす概念です。病気になってから対処するのではなく、普段の生活において「心身を整え、健康な状態に近づける」ことが「未病の改善」になります。



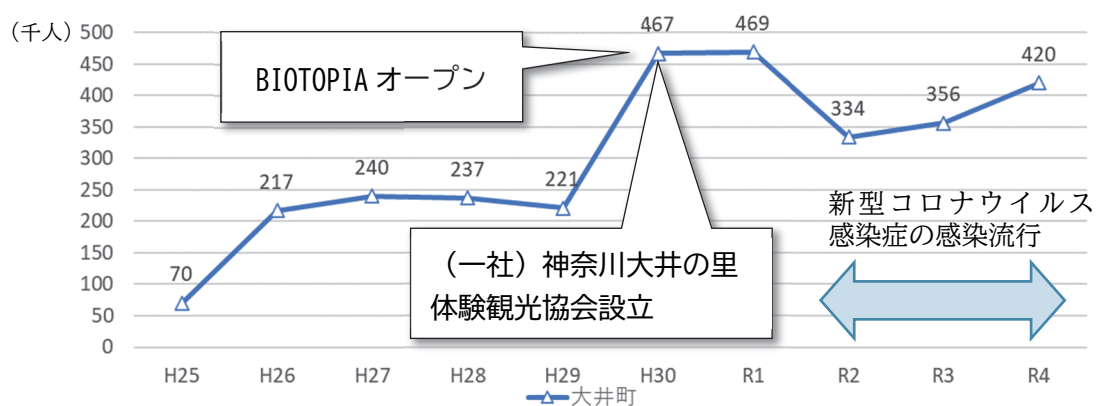
出典：「県西地域活性化プロジェクト」

(3) 観光客の推移

本町の観光入込客数の推移をみると、約 40 万人で推移しており、2019（令和元）年には約 46 万 7 千人となっております。新型コロナウイルス感染症の感染流行に伴い 2020（令和 2）年には約 33 万 4 千人となり減少しますが、2022（令和 4）年には約 42 万人となり、感染流行前の水準には若干戻っていないものの回復傾向にあります。

2022（令和 4）年の県の観光入込客数統計における本町の内訳をみると、「おおいゆめの里」が 3 万人、四季の里 里山花まつりが 2 万 6 千人、大井よさこいひょうたん祭りが 2 万 3 千人等となっています。

■大井町観光入込客数の推移



出典：「神奈川県入込観光客調査」

(4) 観光客の動向〔来訪者アンケート調査〕

本町に来訪している観光客の動向を伺うために、来訪者アンケートを実施しました。

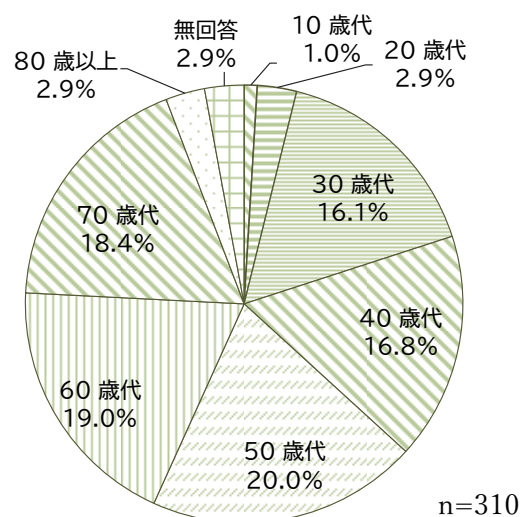
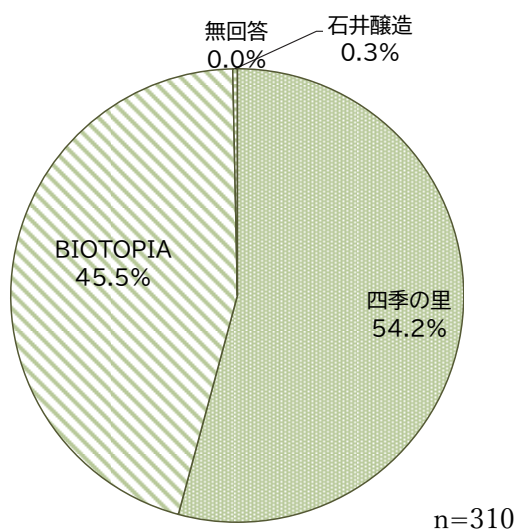
項目	概要
日時	2023（令和5）年11月3日,12月1,2,3,5日（他留置）
実施方法	対面アンケート及び留置
場所	四季の里、BIOTOPIA、石井醸造
回収数	310（一部設問は250）

■来訪者アンケート分析からみる大井町の来訪者の特性(まとめ)

- 属性としてファミリー層が7割程度
- 近隣自治体(県西地域)からの来訪が半分以上
- 宿泊せず短時間での来訪者が7割観光消費額は平均2,498円
⇒国内の旅行単価と比べると少なく、より高付加価値の旅行者を誘客していく必要がある

① アンケートの回答場所及び来訪者の年代

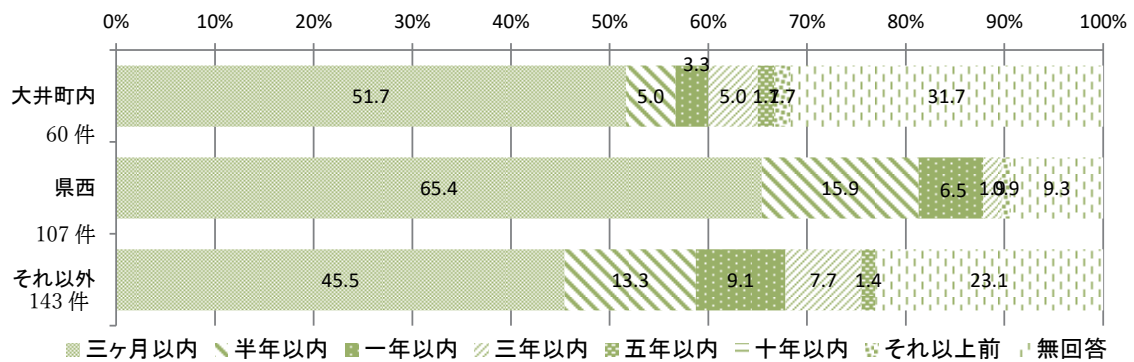
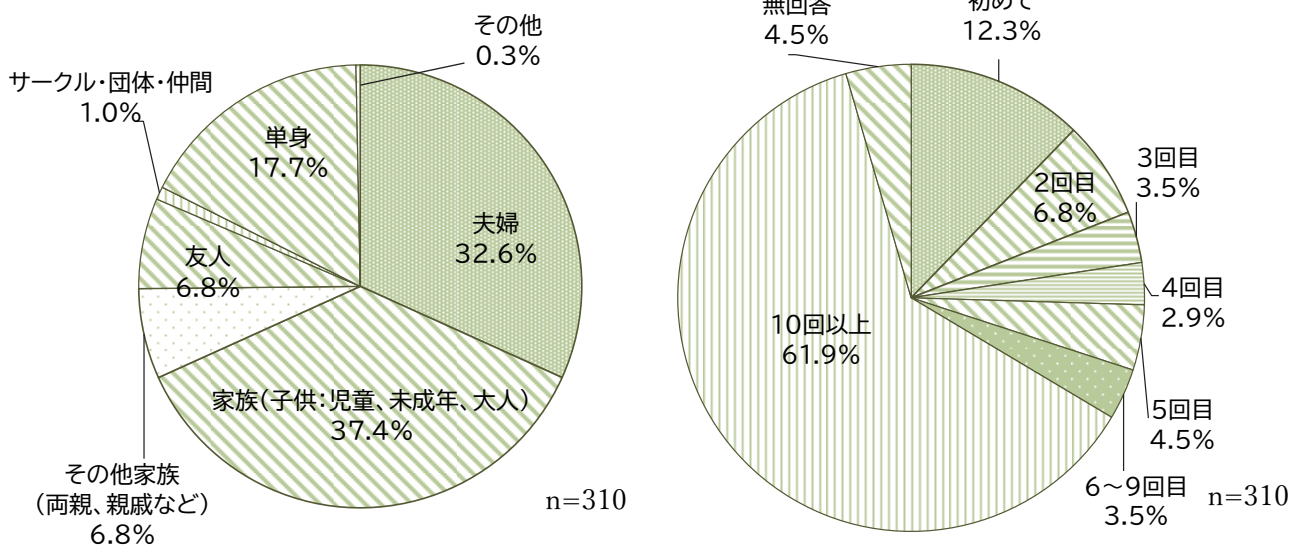
アンケートの回答が最も多いのは四季の里で54.2%、BIOTOPIAで45.5%となっています。また、来訪者の年代をみると最も多いのは50歳代で20.0%となっていますが、他30歳代～70歳代まで幅広い年代の来訪がみられます。



② 来訪者の属性・来訪回数

「夫婦」が32.6%、「家族」が37.4%となっています。単身は17.7%で、**2人以上のファミリー層が7割を占めていることがわかります。**

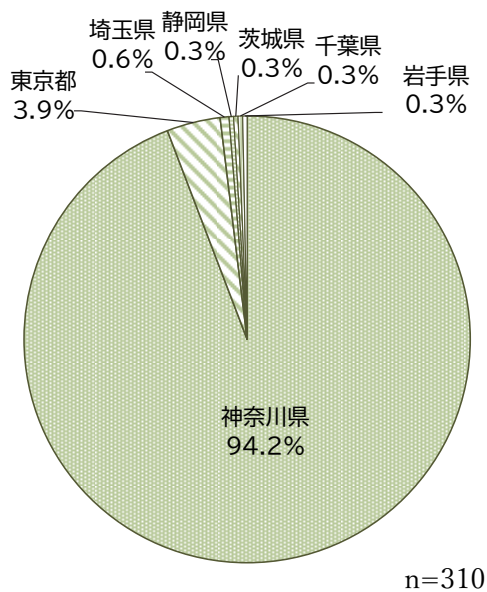
また、来訪回数をみると10回以上が6割を占めるなど、2回以上来訪する**リピーターが多くなっています。**



③ 来訪元

来訪元の都道府県についてみると「神奈川県」が 94.2%と圧倒的に多く、ついで東京都が3.9%となっています。神奈川県からの来訪者の属性をみると大井町が最も多く、次いで小田原市、秦野市、開成町となっています。県西地域（2 市 8 町（大井町除く）の合計）は 34.5%で、大井町を含めると 53.9%と過半数を占めています。

近隣からの来訪者が多い中で、県西地域以外では、湘南地域や横浜地域からの来訪者が一定数みられるため、**経済活性化に向けて湘南地域や横浜地域からの来訪者を増やす可能性**があります。

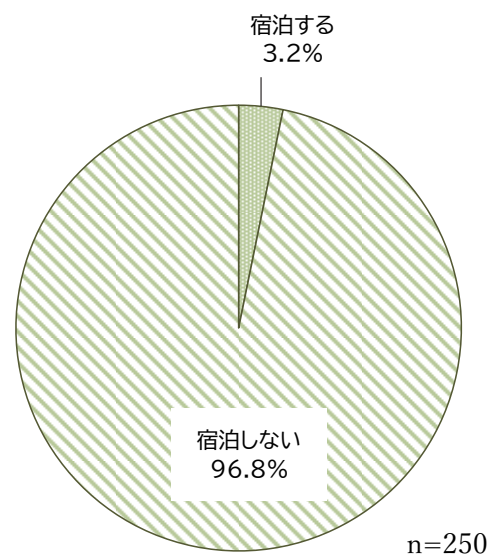
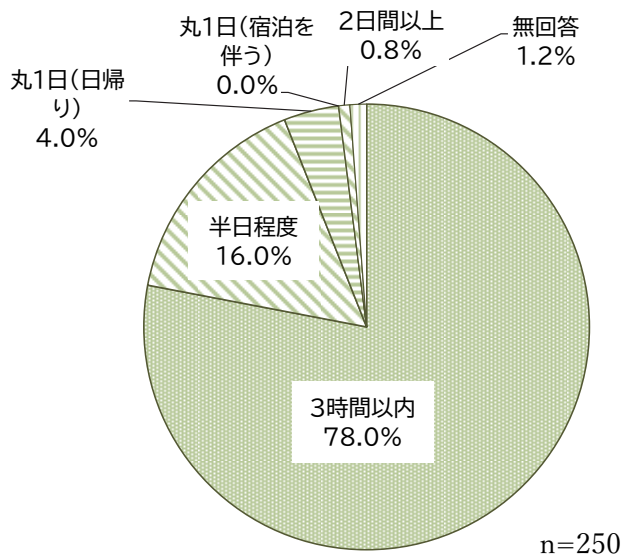


総数	310	100.0%
大井町	60	19.4%
小田原市	50	16.1%
秦野市	37	11.9%
開成町	20	6.5%
南足柄市	18	5.8%
藤沢市	13	4.2%
川崎市	11	3.5%
横浜市	11	3.5%
平塚市	11	3.5%
茅ヶ崎市	10	3.2%
松田町	9	2.9%
中井町	7	2.3%
二宮町	7	2.3%
厚木市	6	1.9%
伊勢原市	5	1.6%
その他県内の市町村	17	5.5%
県外	18	5.8%

④ 大井町における滞在時間・宿泊の有無

大井町における滞在時間については 8 割弱（78.0%）が 3 時間程度となっており、滞在時間が短いことが伺えます。

また、宿泊の有無について、宿泊するが 3.2%、宿泊しないが 96.8%となっており、殆どが**短時間滞在の日帰り客**であることがわかります。

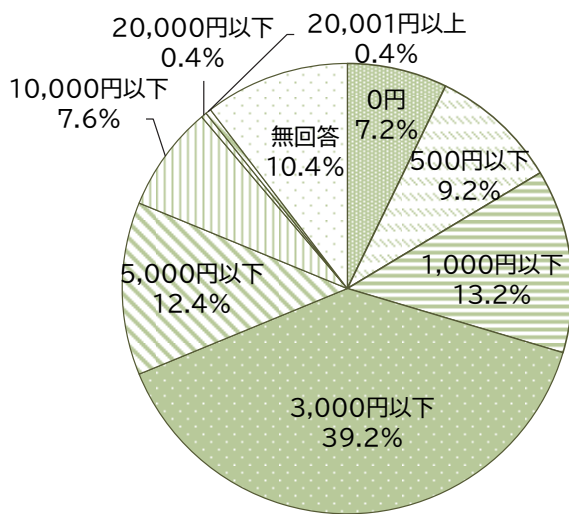


⑤ 大井町における観光消費額

大井町における観光消費額について区分別にみると、3,000 円以下が 39.2%と最も多く、ついで 1,000 円以下、5,000 円以下、500 円以下となっています。

県西地域では 1,000 円以下も多いですが、3,000 円以上も多く、20,000 円以上の方もいます。

平均をみると、2,498 円となっています。これは県内における日本人平均の消費単価目標額の約 9 分の 1 程度であるため、観光振興と経済活性化をつなげていくためには、より多くの施設をつなげていく必要があります。



観光消費額の平均は 2,498 円

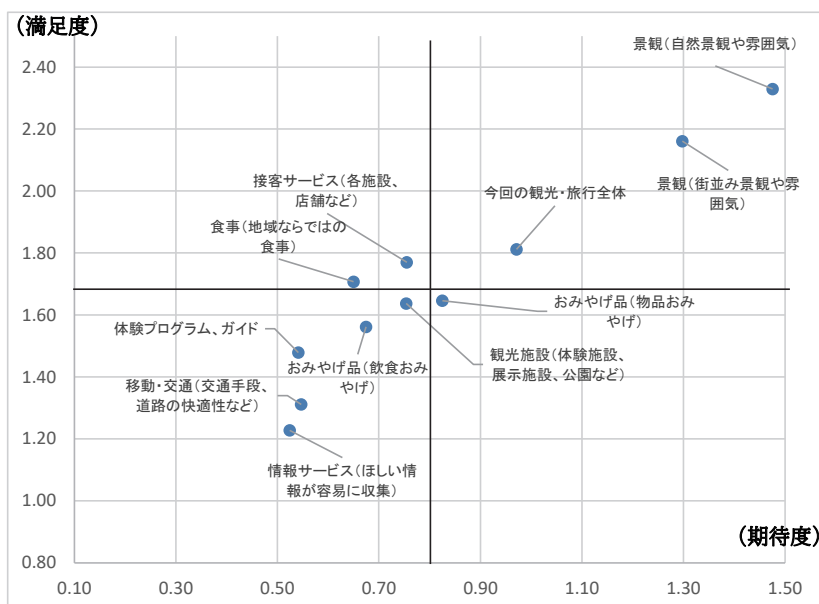
内訳は交通費 219 円、飲食費 556 円、
買い物費 1,643 円、その他 80 円

- 町内在住者の観光消費額平均は 2,061 円
- 町外在住者の観光消費額平均は 2,592 円
- 県西地域在住者の観光消費額平均は 2,803 円

n=250

⑥ 体験コンテンツに関する期待度・満足度

すべてのコンテンツにおいて、満足度が期待度を高まっています。観光において満足度が高いものは「景観（自然景観や雰囲気）」、「景観（街並み景観や雰囲気）」ですが、但し、「体験」や「お土産品」については向上の余地があります。



【算出方法】

それぞれの項目の回答結果について

「とても満足」「とても期待」	・・・+3点
「満足」「期待」	・・・+2点
「やや満足」「まあ期待」	・・・+1点
「どちらでもない」	・・・0点
「やや不満」「あまり期待しない」	・・・-1点
「不満」「期待しない」	・・・-2点
「とても不満」「全く期待しない」	・・・-3点

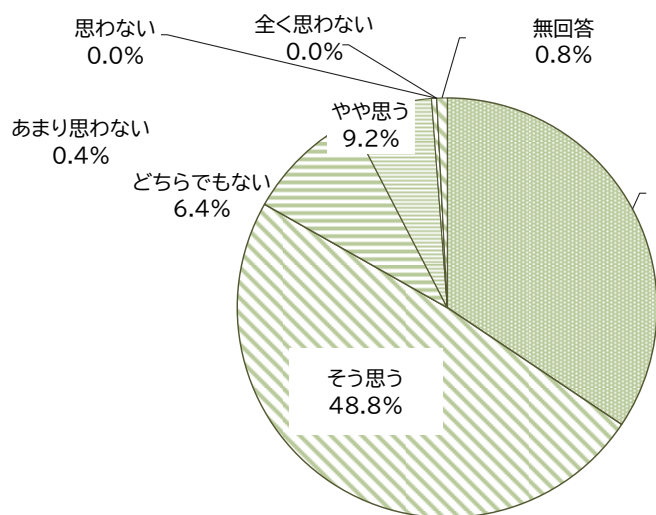
とし、それぞれの点数にそれぞれの回答者数を掛け、それらを合計した数字を回答者数(「無回答」は回答者数に含めない)で割り、算出した。評価点はプラスの大きいものは評価が高く、マイナスは評価が低いことを表している。

n=250

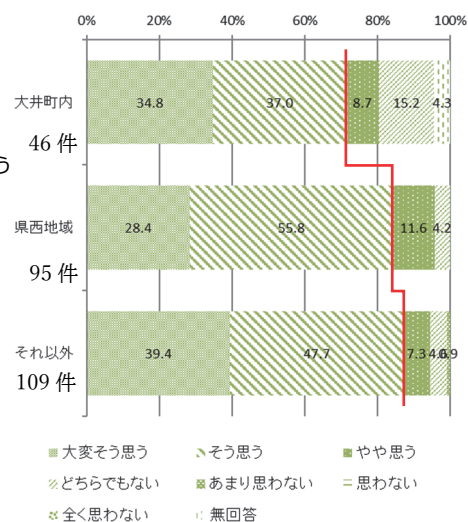
⑦ 大井町への再訪意向

「そう思う」が 48.8%、「大変そう思う」が 34.4%、「やや思う」が 9.2%となっています。

県西地域やそれ以外の地域では、「大変そう思う」と「そう思う」が 84.2%と 87.1%となっており、特に再訪意向が高いことが伺えます。



n=250



(5) 大井町のニーズ〔WEB アンケート調査〕

首都圏における大井町の認知度や観光におけるニーズ等を伺うため、1都3県（東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県）に在住する地域おこしや農業体験に関心のある人を主な対象としたWEB アンケートを実施しました。

項目	概要
日時	2023（令和5）年12月21～25日
実施方法	WEB アンケート
対象	1都3県（神奈川県・埼玉県・千葉県）に在住する20～60歳代 地域おこしや農業体験に関心のある人
回収数	1,600 ※1都3県

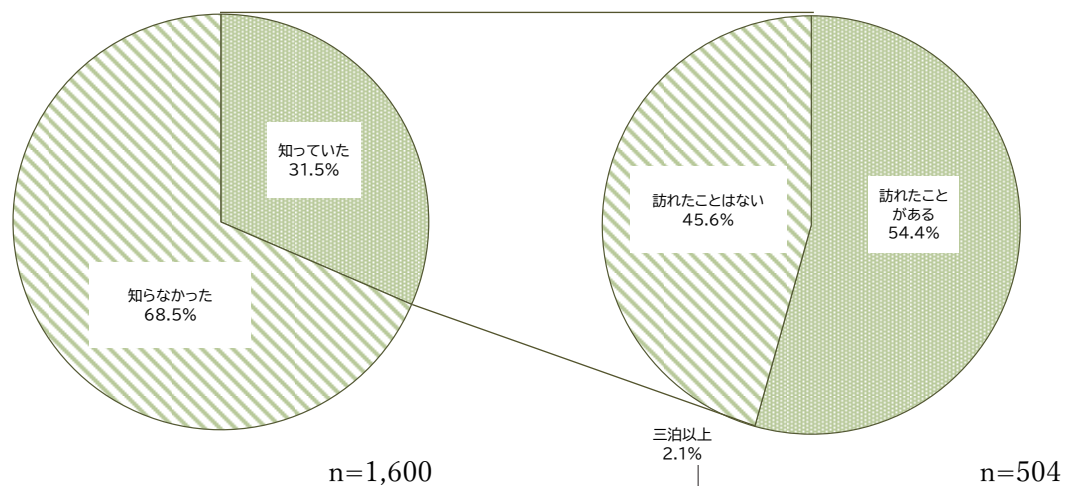
■WEB アンケート分析からみる大井町の特徴(まとめ)

- 大井町を知っていた31.5%のうち、訪れたことがあるのは54.4%
- 一泊二日で滞在したい方が54.6%
- 消費したい額は、5千円～1万5千円未満で38.4%
- 石窯ピザづくりやみかんの総もぎ・収穫などが人気
⇒都市部には、大井町を知っているものの、まだ訪れたことが無いターゲット層が一定数いることが分かる。

① 大井町の認知度・来訪回数

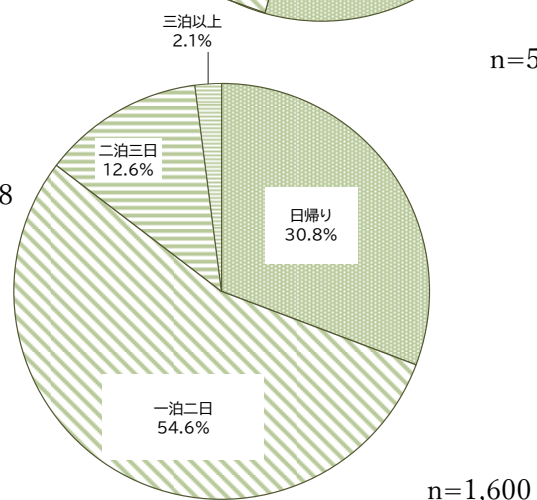
「大井町を知っていた」が31.5%、「知らなかった」が68.5%となっています。

「知っていた」と答えた中でも訪れたことがあると答えた数は54.4%と全体の2割弱となっています。



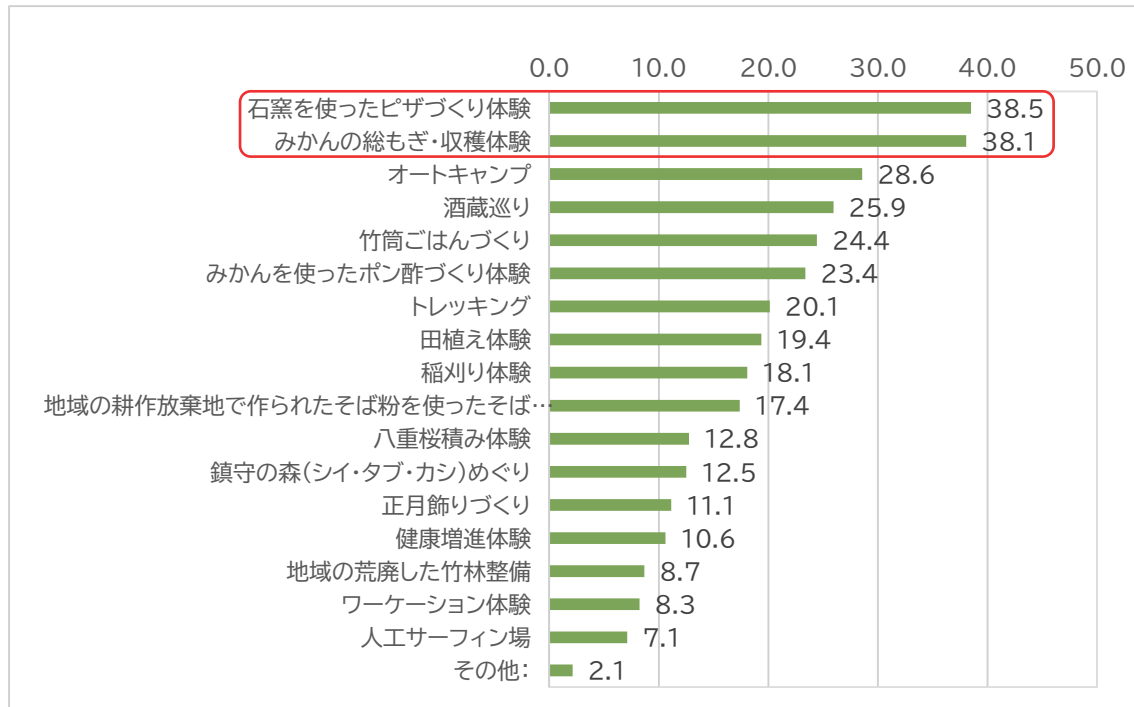
② 大井町に滞在したい日程

「一泊二日」が54.6%、「日帰り」が30.8%
「二泊三日」が12.6%となっています。



③ 大井町で体験したい主な体験プログラム

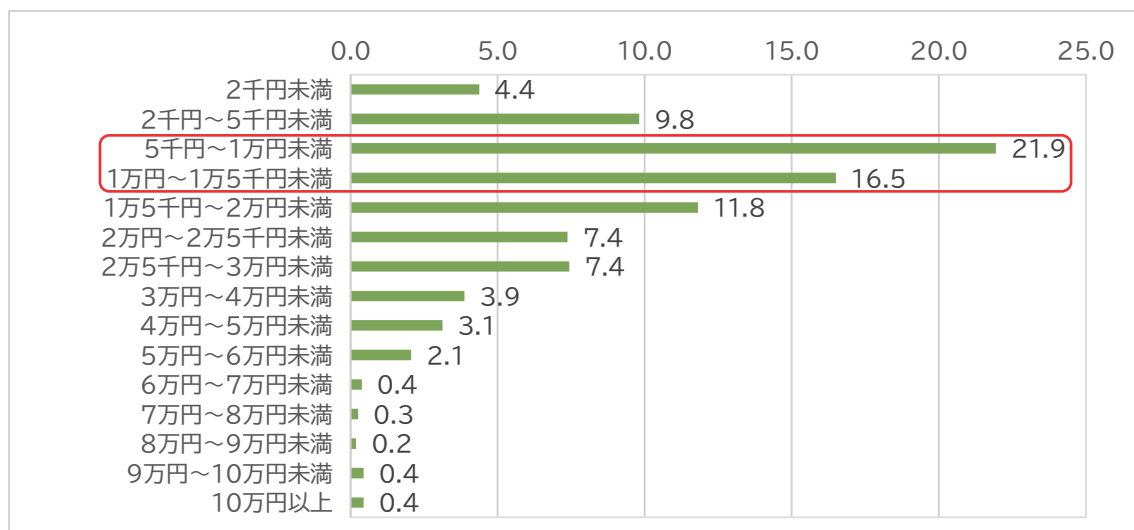
「石窯を使ったピザづくり体験」が 38.5%と最も多く、次いで「みかんの総もぎ・収穫体験」、「オートキャンプ」「酒蔵巡り」、「竹筒ごはんづくり」となっています。



n=1,600

④ 大井町の体験で消費したい金額

「5 千円～1 万円未満」が最も多く、次いで「1 万円～1 万五千元未満」、「1 万五千元～2 万円未満」となっています。現在の消費単価以上に支払う意欲がある層が一定数いることがみて取れます。

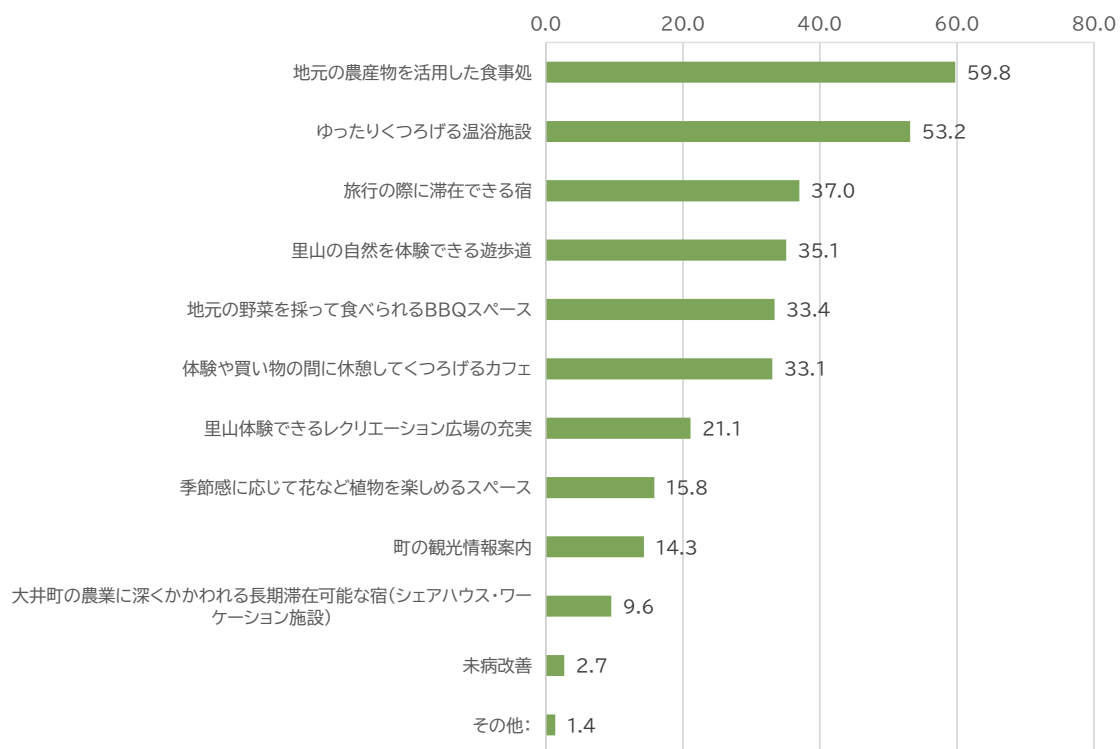


n=1,600

⑤ 拠点整備の方向性

「地元の農産物を活用した食事処」が 59.8%と最も多く、次いで「ゆったりくつろげる温浴施設」が 53.2%、「旅行の際に滞在できる宿」が 37.0%となっています。

来訪者アンケートと同様に「地元の農産物を活用した食事処」、「ゆったりくつろげる温浴施設」に対するニーズが最も高くなっています。



n=1,600

3. 大井町の観光関連の政策の動向

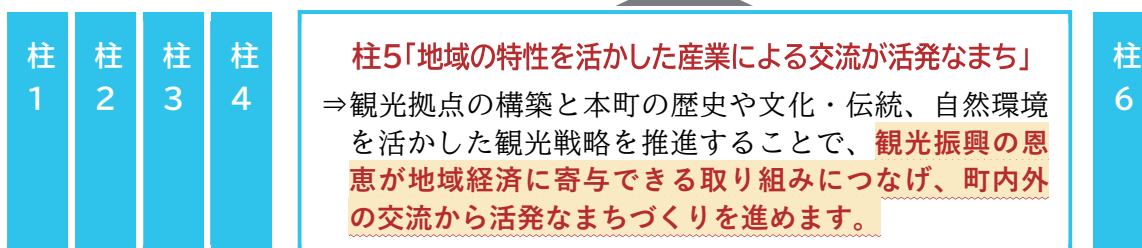
(1) 大井町第6次総合計画（2021～2030）

2021（令和3）年度を始期とする「大井町第6次総合計画」において、観光振興における方向性が示されており、**観光振興を地域経済の活性化につなげていくこと、町内外の交流につなげていく視点が記載されています。**

<総合計画の柱>

総合計画でめざしている将来像 「みんなでつなぐ大井の未来」

まちづくりを「自分事」として考え、町民・議会・行政それぞれの立場から知恵と力を出し合いコミュニケーションを深めながら地域全体の「つながり」によって持続可能で活力あるまちづくりを推進していく。



<基本施策>

観光の拠点づくり	・農業体験施設「四季の里」やおおいゆめの里などの観光資源の有効活用と官民連携による新たな施設整備
観光資源の開発とPR	・町内産の農産物を使用した特産品づくりを推進した新たな観光資源の開発
広域的な観光事業の推進	・広域的な観光事業やPR活動の展開
インバウンド対策の推進	・交流体験事業への受入体制の構築 ・観光施設への多言語表示やWi-Fi環境の整備 ・外国人観光ガイドの養成の推進

<施策の目標>

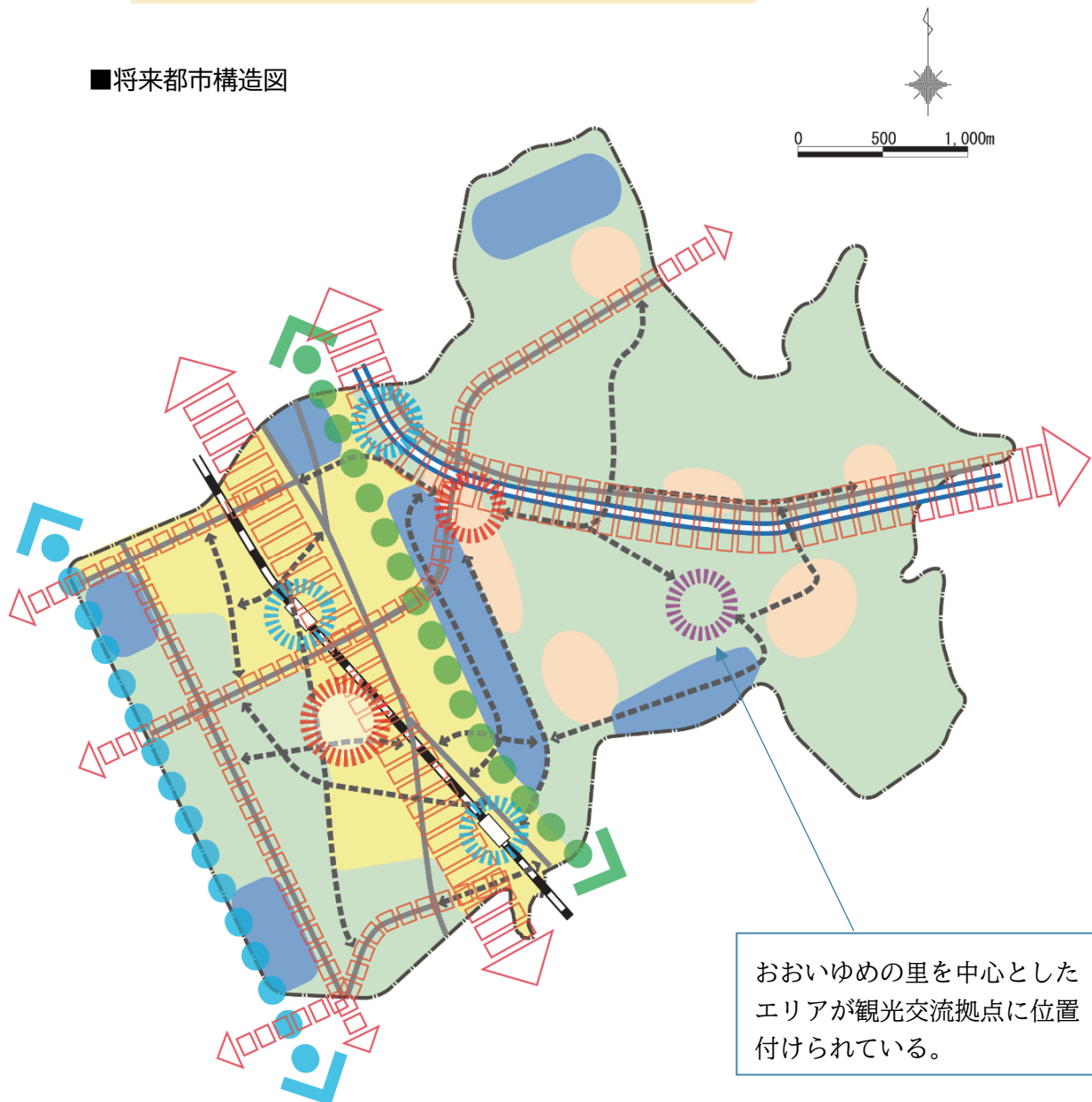
指標	現状値（2019年度）	目標値（2025年度）
交流体験事業受入数	6,800人	21,000人
インバウンド受入客数	0人	500人

(2) 大井町都市計画マスタープラン（2016～）

「大井町都市マスタープラン」においては地域における調和のとれた都市づくりに向けたゾーニングや拠点整備の在り方が示されています。

「おおいゆめの里」近隣については、「観光交流拠点」として、観光やレクリエーション等を通じて、地域内外の交流を促進し、地域の活力・魅力を創出する機能を備えた拠点の形成をめざすということが示されています。

■将来都市構造図



《ゾーン》	《拠点》	《ネットワーク軸》
市街地ゾーン	生活交流拠点	広域連携軸
産業ゾーン	観光交流拠点	地域連携軸
集落ゾーン	広域交通拠点	水と緑の軸（水辺）
農地・森林ゾーン		水と緑の軸（緑）

（３）大井町教育大綱

本町では、町がめざす基本的な教育、学術及び文化の振興に関する総合的な目標や施策の方針を定めた「大井町教育大綱」を策定し、各種の教育施策に取り組んでいます。計画期間は2023（令和5）年度から2026（令和8）年度までの4年間です。

■基本理念

個の育成とつながりづくりの推進

■基本方針

学校教育	1 確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成を重視し、子どもたちが未来社会を切り拓く力を育む教育課程の充実を図ります。 2 基礎的・基本的学習の定着を図るとともに、幼児・児童・生徒一人ひとりの個性に応じた教育を展開し、主体的に学ぶ意欲・態度を育んでいきます。 3 幼稚園・保育園、小・中学校の連携による一貫した教育を推進し、幼児教育及び学校教育の充実を図るとともに、教育環境の整備・充実に努めます。
社会教育	1 町民が安心して自ら学習できる場や情報の提供を推進し、学習活動への支援や学習基盤の整備を図ります。 2 多種多様な知識や技能を持った町民の学びを他者に還元するため、世代間の交流機会や次代を担う人づくりに関わる場の提供を推進します。 3 家庭・学校・地域の連携体制を充実させるとともに、多様なコミュニティにおける交流や学びをとおして、協働のしくみづくりを図ります。

（４）第4次大井町生涯学習推進計画

「第4次大井町生涯学習推進計画」は、2021（令和3）年度から、2030（令和12）年度までを期間とし、生涯学習の基本的目標を示すとともに、生涯学習推進に関する基本施策及び事業を明らかにしたものです。

■基本理念

『可能性が広がる チャンスを生かせる つながりづくり推進のまち おおい』

■生涯学習推進計画における観光振興に関連する施策・事業

郷土大井に関心を持つ事業の推進	・おおい自然園事業による自然活動の普及・啓発 ・おおい出前講座による町への理解・協力 ・文化財の維持管理への支援や文化財を活用した事業実施
生涯スポーツの推進	・各種スポーツ大会の開催 ・各種大会への参加促進
自然環境を守る意識の高揚	・環境に関する啓発活動の充実 ・環境教育の推進

4. 大井町を取り巻く観光動向

(1) 国の観光施策の動向

国では、「観光立国推進基本法」(2006(平成18)年成立)に基づき、観光立国の実現に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、2017(平成29)年には新たに「観光立国推進基本計画」が閣議決定されました。

「観光立国推進基本計画」は、「明日の日本を支える観光ビジョン」(2016(平成28)年3月30日 明日の日本を支える観光ビジョン構想会議決定)を踏まえ、観光は我が国の成長戦略の柱、地方創生への切り札であるという認識の下、拡大する世界の観光需要を取り込み、世界が訪れたくなる「観光先進国・日本」への飛躍を図ることとしています。

またコロナ禍を経て、多様な旅行ニーズ、災害や感染症の発生リスク、SDGs や DX 等に適切に対応できるよう、高付加価値な旅行商品・サービスを造成し適正な対価を得て消費者に販売・提供することを中心とするビジネスモデルへの転換に向けた取り組みの推進、地域密着型の旅行商品充実、新たな観光人材の育成に向けた取り組みを進めています。

【観光立国推進基本計画】

＜観光立国の実現に関する施策についての基本的な方針＞

- ①持続可能な観光地域づくり戦略
- ②インバウンド回復戦略
- ③国内交流拡大戦略

＜観光立国の実現に関する目標＞

持続可能な観光地域づくりの体制整備	①持続可能な観光地域づくりに取り組む地域数	100 地域 (うち国際認証・表彰地域 50 地域)
インバウンド回復	②訪日外国人旅行消費額	5 兆円
	③訪日外国人旅行消費額単価	20 万円
	④訪日外国人旅行者一人当たり 地方部宿泊数	2 泊
	⑤訪日外国人旅行者数	3,188 万人以上 (令和元年水準超え)
	⑥日本人の海外旅行者数	2,008 万人以上 (令和元年水準超え)
国内交流拡大	⑦アジア主要国における国際会議の開催件数に占める割合	アジア最大の開催国 (3割以上)
	⑧日本人の地方部延べ宿泊者数	3.2 億人泊
	⑨国内旅行消費額	20 兆円(早期に) 22 兆円(R7 まで)

① 訪日外国人旅行者数の推移

2019（令和元）年まで訪日外国人旅行者数は右肩上がりが増加し、2019（令和元）年には過去最高の 3,188 万人を記録しています。その後、コロナの影響により大幅に旅行者数は減少しており、回復に向けた取り組みが進められています。

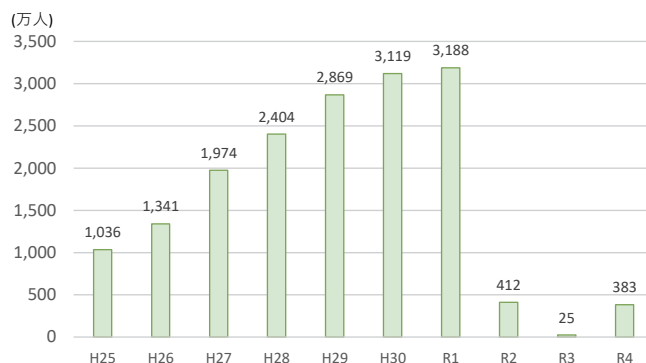


図 訪日外国人旅行者数の推移（出展：日本政府観光局）

② 国籍・地域別訪日外国人旅行者の推移

国籍・地域別でみると、コロナ禍以前より韓国からの旅行者割合が 25%程度を占めています。コロナ禍を経て、東南アジア各国の旅行者割合が大きくなっている一方、中国からの旅行者割合が小さくなっています。また、コロナ以前に上位を占めた地域以外からの旅行者数も増加傾向にあります。

	H29		R4	
	人数 (千人)	割合 (%)	人数 (千人)	割合 (%)
韓国	7,141	24.9%	1,013	26.4%
台湾	4,565	15.9%	331	8.6%
アメリカ	1,375	4.8%	324	8.5%
ベトナム	309	1.1%	284	7.4%
香港	2,232	7.8%	269	7.0%
タイ	988	3.4%	198	5.2%
中国	7,356	25.6%	189	4.9%
シンガポール	405	1.4%	132	3.4%
フィリピン	425	1.5%	127	3.3%
インドネシア	353	1.2%	120	3.1%
オーストラリア	496	1.7%	89	2.3%
マレーシア	440	1.5%	74	1.9%
イギリス	311	1.1%	57	1.5%
カナダ	306	1.1%	56	1.5%
その他	1,990	6.9%	569	14.8%
合計	28,692	100.0%	3,832	100.0%

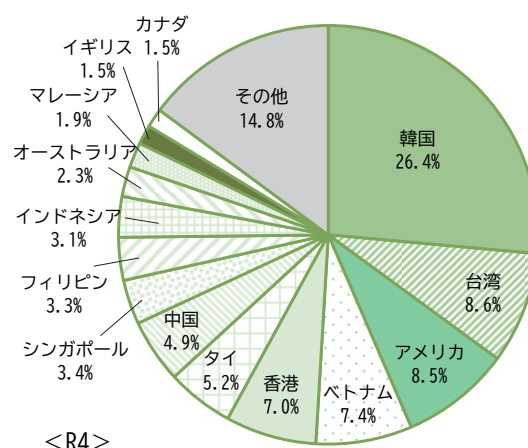


図 国籍・地域別訪日外国人旅行者数の推移（出展：日本政府観光局（JNTO））

③ 訪日外国人旅行者による消費の推移

訪日外国人旅行者数同様、2019（令和元）年まで右肩上がりに増加しており、2019（令和元）年の日本国内における消費額は、前年比 6.5%増の 4 兆 8,135 億円となりました。また、一人当たりの観光消費額については、2014（平成 26）年ごろから横ばい傾向となっていました。高付加価値な旅行商品造成推進の政策に対応し、2020（令和 2）年以降増加傾向にあります。

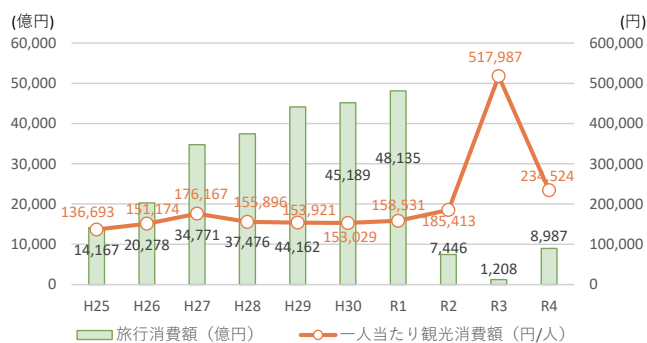
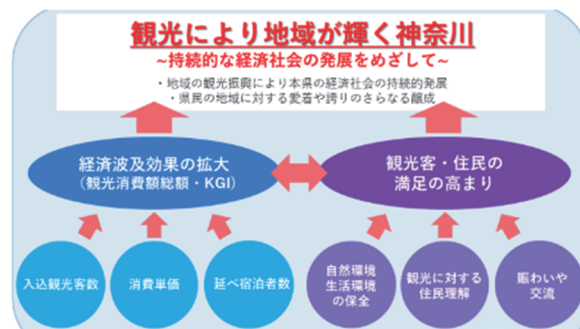


図 訪日外国人旅行者の消費の推移（出展：訪日外国人の消費動向）

(2) 県の観光施策の動向

神奈川県においては 2023（令和 5）年 3 月を始期とする「第 5 期神奈川県観光振興計画」に基づき観光施策が展開されています。

「観光により地域が輝く神奈川」を大目標として、下に紐づく目標として「地域波及効果の拡大」と「観光客・住民の満足の高まり」を設定しています。



【第5期神奈川県観光振興計画】

<基本施策>

- ① 観光データの活用(整備と分析)
- ② 観光資源の発掘・磨き上げや地域で活躍する観光人材の育成
- ③ 観光客の受入環境整備
- ④ 地域の特徴や意見を踏まえた国内外への戦略的プロモーション
- ⑤ 観光関連産業の成長促進

<本計画（令和 5 年度～令和 8 年度）の数値目標>

	現状値	目標値（2026 年度）
観光消費額総額	9,643 億円※全国(2021 年度)	1 兆 1,707 億円
日本人消費単価	21,830 円※全国(2021 年度)	24,160 円
外国人消費単価	66,838 円※全国(2020 年度)	102,320 円
入込観光客数	1 億 1,725 万人(2021 年度) 2 億 467 万人(2019 年度)	2 億 1,023 万人
満足度	63.2%(2021 年度)	70%
再訪意向	83.8%(2021 年度)	80%

① 訪日外国人旅行者数の推移

神奈川県に来訪する外国人旅行者は 2016（平成 28）年に最多となり、5,909 千人まで増加しました。2017（平成 29）年以降は減少傾向にあり、3,000 千人程度で推移していましたが、新型コロナウイルス感染症の動向により、激減しています。

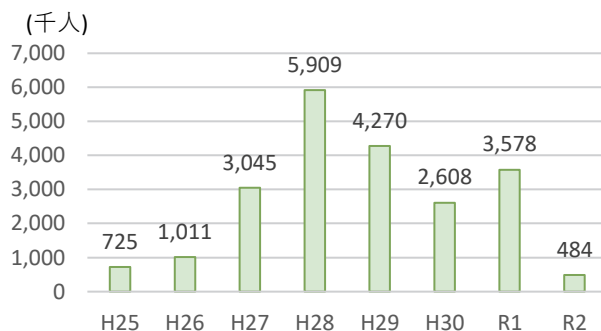


図 訪日外国人旅行者数の推移（出典：日本政府観光局

(3) 広域連携（神奈川県西部）の動向

① 神奈川県西の連携の動き

県西地域の市町（小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町及び湯河原町）、県、団体、企業等で構成する県西地域活性化推進協議会では、2014（平成26）年3月「県西地域活性化プロジェクト」を策定しました。ウィズコロナ時代の「新たな日常」への移行を含め、2021（令和3）年3月にプロジェクトが改定されましたが、2023（令和5）年度においてもさらなる改定が進められており、「移住・定住の更なる促進」に重点を置いた取り組みの方向性が示されています。

また、2016（平成28）年に県西2市8町の「かながわ西観光コンベンション・ビューロー」が設立されました。60以上の会員が参加され、多様なメンバーが参画して月1回情報共有を図っています。併せて、「広域観光周遊ルート・エリア」の形成として、商品化や情報発信しようという動きがみられます。

■県西地域活性化プロジェクト・めざすすがた(改定素案)

かながわ県西での“心地よい”暮らし
～つながり×未病改善のライフスタイル～

■各プロジェクト

柱	プロジェクト
1 住む	① 移住・定住の更なる促進強化
	② 未病改善の拠点活用・実践の促進
	③ 持続可能な循環型の地域づくり
2 働く・楽しむ	④ 多様な働き方ができる地域づくり
	⑤ 地域の魅力を生かした仕事の創出
	⑥ 暮らしを支える仕事と産業の基盤づくり
	⑦ 地域のオンリーワンの魅力の活用・発信
3 育む・学ぶ	⑧ 次の世代につながる環境の整備
	⑨ 地域資源を活用した多様な学びの提供
4 つながる	⑩ 人のつながりを生かした交流の推進・課題への対応
	⑪ 移動の利便性向上・周遊促進による地域のつながり強化
	⑫ 交通ネットワークの整備・活用の推進

② 近隣自治体の観光入込客数の推移

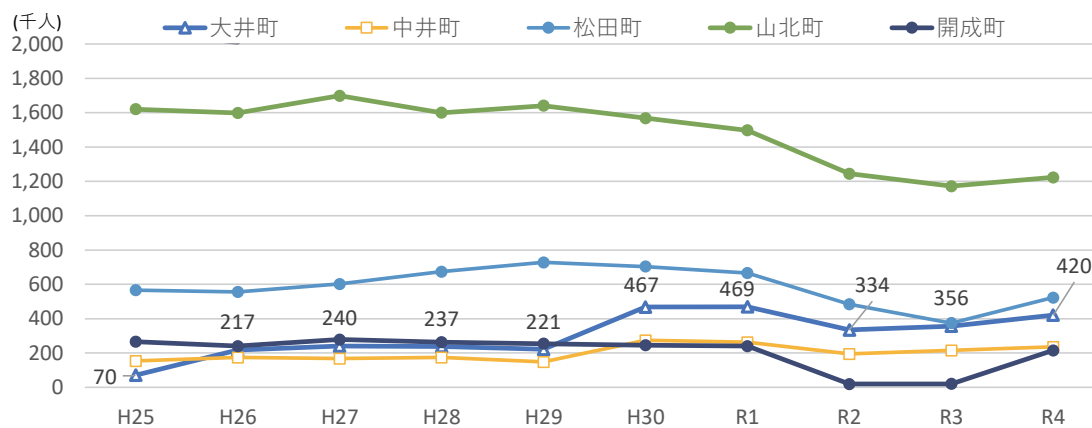
県西地域の過去 10 年の観光入込客数の推移をみると、温泉地帯を抱える箱根町が約 2,000 万人程度で推移しており、次いで小田原市、秦野市、山北町となっています。

大井町は約 40 万人で推移していますが、**近隣における来訪者の還流や広域連携の視点も必要**です。

■近隣自治体の観光客入込客数

(千人)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
大井町	70	217	240	237	221	467	469	334	356	420
松田町	566	556	602	674	728	704	666	484	374	523
山北町	1,621	1,599	1,699	1,600	1,641	1,569	1,498	1,245	1,172	1,223
開成町	266	240	278	263	254	245	240	19	20	215
中井町	154	174	167	174	148	274	262	195	215	236
小田原市	4,650	4,514	4,538	5,943	6,115	6,182	6,248	3,705	5,291	7,265
秦野市	2,087	2,006	2,718	2,593	2,611	3,792	4,472	3,381	3,664	4,154
箱根町	20,857	21,190	17,376	19,565	21,520	21,260	18,960	12,570	13,500	17,360



出典：神奈川県入込観光客調査

5. 大井町の観光課題

1. 大井町の観光の現状まとめ

観光消費金額が低い、飲食や体験の組み合わせにより向上できる可能性がある。

- ・消費金額は町内在住者よりも町外在住者が高い傾向にあり、域外の方を含めた誘客により消費額を増やせる余地があります。
- ・飲食消費をしていない層が7割弱、体験は9割であり、拠点における飲食機能充実のニーズに対応しながら、飲食や体験している層を組み合わせることで、消費金額を向上させられる余地があります。
- ・また、WEBアンケートでは5千円以上消費する層がみられるため、遠方からの層を誘客できる可能性があります。

日帰りメインで滞在時間が短い、体験実施の誘客やファミリー層向けの宿泊プランに可能性がある。

- ・体験を実施している層は比較的滞在時間が長いので体験やハイキング等滞在を増やすコンテンツに注力することで地域の魅力をより知ってもらえる可能性があります。
- ・民泊に関心のある層が4割程度です。比較的若年層が関心のある割合が高く、若い人に興味を持ってもらえれば滞在時間を延ばせる可能性があります。
- ・他近隣自治体と連携した宿泊を組み合わせたプランにより、誘客を効果的に推進している可能性があります。
- ・インバウンド回復を好機に本町でも誘客向上の可能性を秘めています。

年間通じて満足度の高い体験や食を提供できるコンテンツづくりや発信が鍵

- ・本町の景観「自然」については満足度の高い結果を示しています。一方で食事や体験プログラムについては、まだまだ向上の余地があるといえます。
- ・拠点における飲食機能の充実のニーズが高いことから、食のコンテンツの向上の余地があります。
- ・リピーターが多く、何度も本町に来てくれるファンや関係人口づくりの素地ができつつあります。

受入環境整備や基盤整備を進めていく必要がある。

- ・受け入れを進めていくにおいても交通の問題、体験民泊家庭の確保などに取り組んでいく必要があります。
- ・他基盤となる人材育成を含め地域一丸となって、観光の基盤を検討・整備していく必要があります。

2. 大井町の観光課題

課題1 大井町を巡りたくなる観光拠点・周遊ルートの充実化

1人あたり観光消費額は2,498円と県水準より低く、体験や食、お土産購入といった一貫した旅の消費を通じて地域により経済効果の高い観光事業を進める必要があります。

観光消費額の向上にあたっては、(一社)神奈川大井の里体験観光協会が推進する交流体験事業に併せ、町内唯一の温泉宿泊施設や農業体験施設「四季の里」、おおいゆめの里などの観光資源を有効活用することにより、おおいゆめの里周辺を本町の観光拠点として賑わいの創出を進めることや、BIOTOPIA、町内飲食店、酒蔵会社との連携による周遊ルートの充実化を進めることが求められます。

課題2 大井町に居続けたい滞在時間の延伸

来訪者の滞在時間は3時間程度が過半数の割合を示しており、体験プログラムの参加や食事、立ち寄りたい観光資源の周遊により、滞在時間を延ばし、より本町の魅力を知ってもらえる機会や時間をつくることのできる余地があると考えられます。観光消費額の水準も低いことから、来訪者が居心地よく満足度の高い滞在時間をいかにつくれるか、また、それにより地域への消費を促すことのできるコンテンツやおもてなし等の環境整備が求められます。

課題3 年間通じた魅力あるコンテンツの充実化

より本町に滞在し、町内消費額を増やしていくために、四季折々に豊富に位置する自然環境を活用しながら、何度でも来て新しい発見や満足度が高まるコンテンツとして充実させていくことが求められます。

課題4 優先すべきターゲットの設定

これまで幅広く観光情報の周知発信を進め、一定の認知度を得てきたと考えます。今後は、本町に足を運び、交流体験に参加してもらえる優先すべきターゲットを設定し、ターゲットごとに訴求できるようなコンテンツづくりや周遊プラン、情報発信が求められます。

課題5 持続可能な観光経営の体制づくり

上記課題1～4を解決していくためには、町、地域住民や事業者、地域外の企業や大学等各主体が連携し同じ方向性をめざし、地域一体となって、地域の受入環境の充実及びまちづくりを推進していくことが求められます。

第3章 大井町のめざすべき姿

1. 大井町観光の基本的考え方

地域課題の解決につながること

これまで、体験観光を推進するにあたり、農家の高齢化・人手不足、耕作放棄地、放棄竹林など、特に1次産業における困りごとについて、交流体験を通じて解決につながる取り組みやコンテンツを提供してきました。地域の課題を解決する担い手として、こうした体験に参加することで、自分自身の新しい発見や学びにもつながります。このような本町ならではの地域課題の解決につながる交流体験を大切にしていきます。



BIOTOPIAの竹林

地域産業の活性化につなげること

本町での交流を通じ、人や資源の魅力を知ってもらうことで、農産物においては販路拡大につながるとともに、農業・里山の魅力から新規就農などの雇用創出や移住定住の推進につながっていくこと、また、農業以外でも地域住民、飲食店や町内事業者等とも連携し、交流体験の連携を通じて地域の皆さんがメリットとなる地域産業につなげることを大切にしていきます。



農業体験の受け入れ

自然環境保全・生物多様性につながること

関東最古級の稲作地帯、推定樹齢800年のシイノキがそびえる鎮守の森など、豊かな自然環境を有する本町について、これからも持続可能な自然・里山を形成していくことにつながるよう、環境に配慮した観光地域づくりを進めていくことを大切にしていきます。



相和地域の田園風景

これまでの取り組みをつなげること

新しいものをゼロからつくるのではなく、これまで進めてきた交流体験事業や地域資源を活かし、つなげていくことを大切にしていきます。



交流体験事業の受け入れの様子

2. 大井町の観光振興のめざす姿

住む人が自分のまちに誇りと愛情を持ち、おもてなしの心をもって、本町の良さを広く発信し、訪れた方がそれを楽しみ、さらにそこから交流の輪が広がり、国内外から多くの人々が集い・交わる地域づくりをめざすという観点から、次のとおり定めます。

〔めざす姿〕

二千年つづく里山 大井町の歴史・里山の交流を通じて つながりつづけられるまち

「二千年つづく里山」

縄文時代から人々の生活が続くこの地は、丹沢山地から運ばれた透水性のよい砂礫層が伏流水を生み、豊富な地下水を貯える大地として自然豊かな恵みを形成してきました。この二千年つづく里山をこれまでも、これからもつなげていけるように、大井町の暮らしや原風景を守っていきます。

「大井町の歴史・里山の交流」

農体験、食体験、里山体験、自然体験、創作体験、まち歩き体験、体験民泊など、大井町の歴史や里山の暮らしに寄り添った体験を通じて、地域の魅力を知ってもらったり、時には地域の困りごとや課題に向き合い、時には地域の人と素敵な出会いがあったり、大井町の交流を通じて、単なる楽しさだけでなく、自分自身の新しい気づきや学びにつながる、そんな交流をめざします。

「つながりつづけられるまち」

「今度はあの体験をしに行こう」「毎年恒例でみかんもぎに行ってます」「またあの人に会いに行きたい」そんな何度でも訪れたい、会いたくなる、関わり続けたい、あたたかく受け入れられるまちは、来訪者も満足度高く、また、交流を通じて受け入れるガイドや地域住民も「おかえり」と言える関係性で地域の誇り醸成にもつながります。このようなつながりつづけられる関係性を住民、企業、行政と一体となって取り組んでいきます。

3. 基本方針

基本方針1 魅力あるつながる観光地域づくり

本町の歴史・里山の体験を通じて、地域の魅力や人を知ってもらい、ずっとここで時間を過ごしたい、何度でも訪れたいと思ってもらえる満足度の高い魅力あるコンテンツやおもてなしを提供できる地域づくりを推進します。



おおひゆめの里からの眺望



大井よさこいひょうたん祭



地酒と大井スイーツ

基本方針2 ファンの拡大とつながる仕組みづくり

町民と本町のファンがつながりつづけられるまちをめざし、四季折々の体験で年間を通じて訪れてもらったり、教育旅行として子どもたちが毎年関わったり、地域資源・地域課題との接点など、本町を好きで関わってくれる人たちを助け、つながりつづけたくなる環境とそのための情報発信・PR活動を推進します。



民泊での料理体験



民泊集合写真



収穫体験

基本方針3 地域一体でつながる受入環境の充実

基本方針1、2を実現していくために、地域住民や事業者、地域外の企業や大学等各主体が連携し同じ方向性のもと、地域の受入環境の充実を図ります。



大学と地域の交流活動体験事業の受け入れの様子



観光の拠点施設「ラ・レイエス湘南」

4. 数値目標

1. 本計画の目標設定

- 観光客に使ってもらうお金を年間 16 億円に上げ、観光振興を通じて地域経済循環に貢献する
- 半年以内訪問頻度のリピーター率を 80%に上げることで年間通じてつながりつづけられる満足度の高い来訪者を増やしていく

■数値目標（イメージ）

項目	現状値(2023 年度)	目標値(2030 年度)
観光消費額（町全体）	10 億円	16 億円
半年以内の来訪頻度の来訪者割合	65.8%	80%
※参考値① 一人当たり観光消費額	2,498 円	3,296 円
※参考値② 観光入込客数	420,000 人 (2022 年度実績値)	471,500 人

■目標額の算出方法

【現状の観光消費額について】

<観光入込客数の設定>

- ・神奈川県観光入込客調査をもとに、現状の観光入込客数（420,000 人）の内訳を以下 3 分類に整理
 - a) 四季の里への来訪者数：53,500 人
 - b) その他の施設での来訪者数：364,000 人
 - c) 四季の里へ体験に来た来訪者数：2,500 人

<一人当たり観光消費額の設定>

- ・上記 3 分類について一人当たりの観光消費額を来訪者アンケート調査より算出
 - ア) 四季の里の一人当たり観光消費額：1,653 円
 - イ) その他の施設での一人当たり観光消費額：2,498 円
 - ウ) 四季の里へ体験に来た方の一人当たり観光消費額：4,153 円※

※四季の里に体験への来訪者については四季の里の来訪者に体験金額を加えて推計

<町全体の観光消費額総額の算出>

- ・観光入込客数と一人当たり観光消費額を乗じた合計を町全体の観光消費額とする。

観光消費額総額（現状値）：〔a〕×ア〕＋〔b〕×イ〕＋〔c〕×ウ〕＝約 10 億円

【目標年度（2030 年度）の観光消費額】

<観光入込客数の設定>

- ・町の観光入込客数が現状からコロナ前迄に回復することを目標人数と設定し、増加率を a～b の来訪者数に乗じて算出
- ・ c) 四季の里へ体験に来る来訪者については、交流体験事業の受入目標設定を別途設定
- ・新たなターゲットとして教育旅行の受け入れにより、1,500 人の受け入れを目標数値として設定

○コロナ前の増加率：470,000 人（2019 年時※端数調整）÷ 420,000 人（2022 年時）＝約 112%

○2030 年度の来訪者数（推計）

a') 四季の里への来訪者数※体験除く

：53,500 人×112%-2,500 人（四季の里へ体験に来た来訪者数）=60,167 人

b') その他の施設での来訪者数：364,000 人×112%=407,333 人

c') 四季の里へ体験に来た来訪者数：2,500 人

d) 教育旅行による来訪者数：1,500 人

<一人当たり観光消費額の設定>

- ・ a')～c')の消費単価について年 2%程度の物価上昇を加味して推計
- ・本町の観光周遊の充実や滞在時間延伸を図ることにより、観光消費のうち、体験と買い物の消費単価向上を加味した値を単価目標値とする。本計画では一人当たり 500 円の消費額単価増を設定する。
- ・ d)教育旅行誘客について、1 泊当たり 10,000 円の宿泊費と 5,000 円体験プログラムと設定し、一人当たり消費単価を 15,000 円として設定

○2030 年度の各分類における一人当たり観光消費額（推計）

ア') 四季の里の一人当たり観光消費額：2,399 円

イ') その他の施設での一人当たり観光消費額：3,369 円

ウ') 四季の里へ体験に来た方の一人当たり観光消費額：5,399 円

エ') 教育旅行での一人当たり消費額：15,000 円

※全体の一人当たりの観光消費額は 3,296 円となる。

<町全体の観光消費額総額の算出>

- ・以上より、観光入込客数と一人当たり観光消費額を乗じた合計を町全体の観光消費額の目標数値とする。

観光消費額総額（目標値）：

$$[a') \times \text{ア}') + [b') \times \text{イ}')] + [c') \times \text{ウ}')] + [d') \times \text{エ}')] = \text{約 16 億円}$$

■（参考）目標額の算出シート

■観光消費額現状値（令和5年度）

①四季の里への来訪

観光入込客数	1人あたりの観光消費単価 (アンケートより)	観光消費額（項目計）
A	B	$C(=A \times B)$
53,500 人	1,653 円	88,431,239 円

②その他施設等への来訪

観光入込客数	1人あたりの観光消費単価 (アンケートより)	観光消費額（項目計）
A	B	$C(=A \times B)$
364,000 人	2,498 円	909,207,419 円

③四季の里への来訪（体験に従事）

観光入込客数	1人あたりの観光消費単価 (アンケートより)	観光消費額（項目計）
A	B	$C(=A \times B)$
2,500 人	4,153 円	10,382,301 円

一般観光客（①+②+③） 420,000 人
教育旅行受入 0 人 **1,008,020,959 円**

■観光消費額目標値（令和12年度）

①四季の里への来訪

観光入込客数	1人あたりの観光消費単価 (目標値)	観光消費額（項目計）
A	B	$C(=A \times B)$
60,167 人	2,399 円	144,320,936 円

②その他施設等への来訪

観光入込客数	単価（目標値）	観光消費額（項目計）
A	B	$C(=A \times B)$
407,333 人	3,369 円	1,372,392,761 円

③四季の里への来訪（体験に従事）

観光入込客数	単価（目標値）	観光消費額（項目計）
A	B	$C(=A \times B)$
2,500 人	5,399 円	13,496,715 円

④教育旅行受入

観光入込客数	単価（目標値）	消費単価
A	B	$C(=A \times B)$
1,500 人	16,000 円	24,000,000 円

一般観光客（①+②+③） 470,000 人
教育旅行受入（④） 1,500 人 **1,554,210,412 円**

2. 各基本方針の数値目標

基本方針1 魅力あるつながる観光地域づくり

何度でも訪れたいと思ってもらえるよう、付加価値の高い体験プログラムや食の提供、町内周遊促進を通じて以下の目標を掲げます。

■指標

	現状値（2023 年度）	目標値（2030 年度）
観光客満足度 （アンケートに「とても満足した」割合）	25.2%	45.0%
四季の里の観光消費額	1,653 円	2,399 円

■測定方法

- ・観光客満足度は来訪者アンケート調査により測定します。
（考え方：7段階評価で現状、「とても満足した」が25.2%、「満足した」が40.8%、「まあ満足した」が15.6%、「どちらでもない」が10.4%、「やや不満」が0.4%、「不満」が0.8%、とても不満）が0.4%、「無回答」が6.4%
リピーターの満足度を増やし、「満足した」と回答した半分の層（40.8%のうち約20%程度）を「とても満足した」に上昇させ、45.0%程度とする。）
- ・四季の里の観光消費額は、四季の里での来訪者アンケート調査から消費額を推計します。
（考え方：37 頁記載の物価上昇と消費額単価増を加味した目標額）

基本方針2 ファンの拡大とつながる仕組みづくり

メインターゲットとする教育旅行の受け入れを実現し、また、本町のファンを増やしていくために、以下の目標を掲げます。

■指標

	現状値（2023 年度）	目標値（2030 年度）
教育旅行受入数	—	7 件 (1,400~1500 人)
SNS フォロワー数	287 フォロワー	1,000 フォロワー

■測定方法

- ・本町で学校等の教育旅行（民泊含む）を受け入れた件数をカウントし設定します。
- ・（一社）神奈川大井の里体験観光協会のアカウントよりフォロワー数を測定します。
（考え方：LINE のオープンチャットの登録数）

基本方針3

地域一体でつながる受入環境の充実

地域住民や事業者、地域外の企業や大学等各主体が連携した取り組みを推進するため、以下の目標を掲げます。

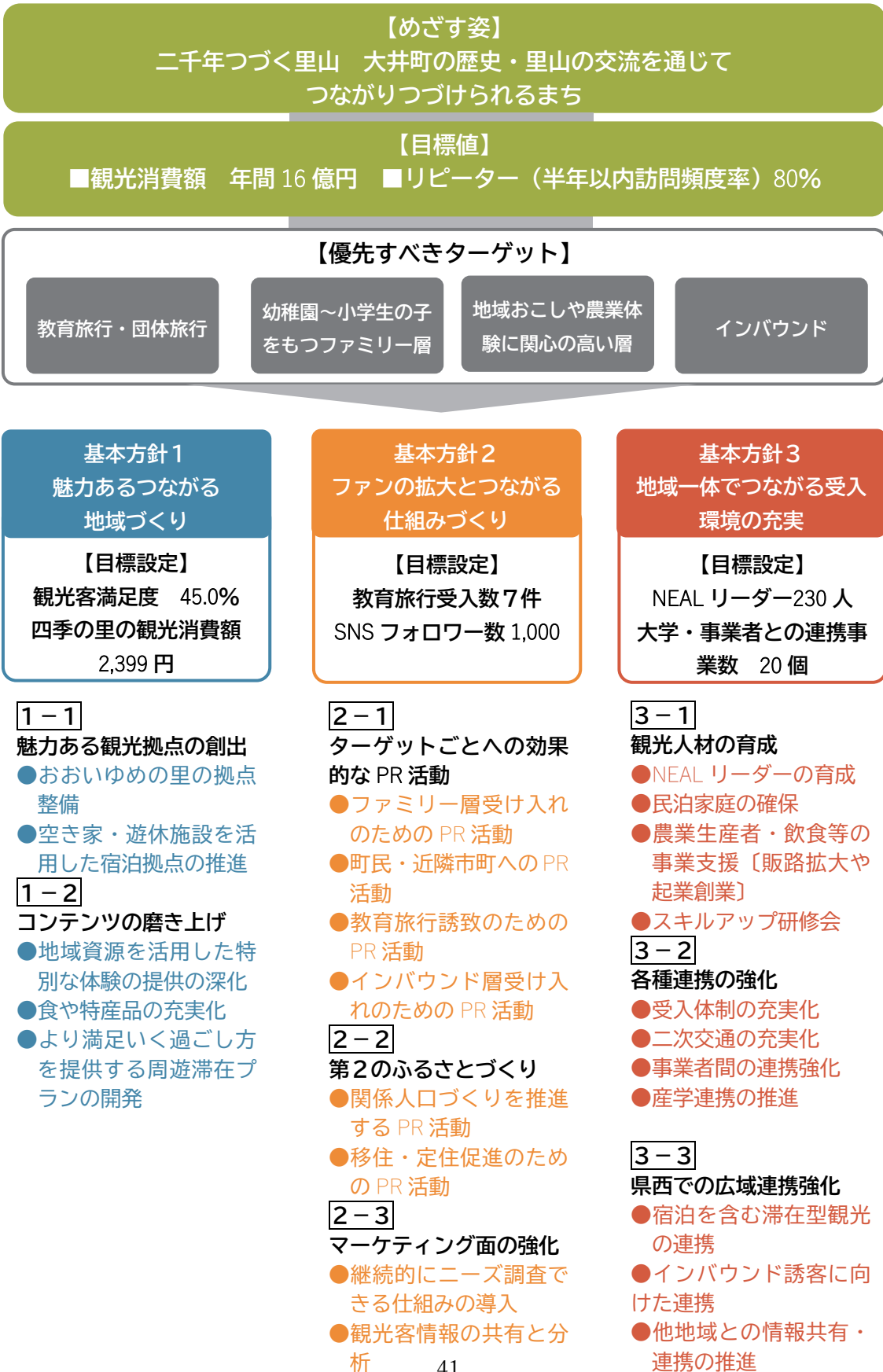
■指標

	現状値（2023 年度）	目標値（2030 年度）
NEAL リーダー数	114 人	230 人
大学・事業者との連携事業数	11 個	20 個

■測定方法

- ・ NEAL リーダー講習会の実施によりリーダー認定数をカウントします。
（考え方：現状値に毎年の修了目標人数を記載（16 人程度×7 年））
- ・ 施策に記載している事業が町内で行われた数
（考え方：施策を 20 個記載しているため、その施策の実施数）

5. 施策体系



第4章 基本施策

基本方針1

魅力あるつながる観光地域づくり

1-1 魅力ある観光拠点の創出

観光客の滞在拠点となる場所や環境を充実させることで、滞在時間延伸を促し、観光消費の増加を図ります。

【主な取り組み】

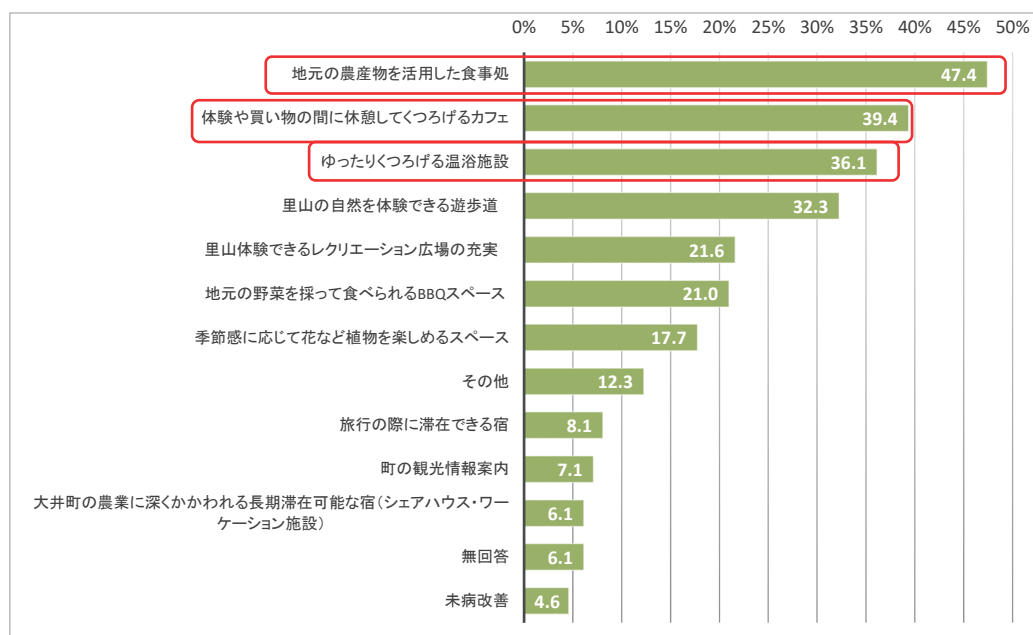
●おおいゆめの里の拠点整備

・おおいゆめの里の整備計画の策定及び整備の実施

おおいゆめの里及び農業体験施設「四季の里」周辺を、交流体験事業の拠点として展開している中、今後、おおいゆめの里周辺エリアを町の観光の目的地として魅力的な拠点としてさらに強化していくことが重要です。観光拠点の創出は、観光全体の窓口や情報発信の核となり、本エリアでの体験や町内観光周遊を促すことで、観光産業活性化に寄与し、賑わいの創出に寄与します。本事業では、来訪者のニーズなどを参考に、おおいゆめの里の拠点整備に向け、民間ノウハウの活用も視野に入れながらさらなる賑わいの創出に向け、温泉や河津桜、里山の景観や暮らしなどの観光資源を有効活用し、効果的な事業手法の検討と併せ、観光拠点としての整備を進めていきます。

【参考：拠点化におけるニーズ（来訪者アンケート調査より）】

「地元の農産物を活用した食事処」が47.4%と最も多く、ついで「体験や買い物の間に休憩してくつろげるカフェ」が39.4%、「ゆったりくつろげる温浴施設」が36.1%となっています。「ゆめの里」近隣での食事処やカフェなどといったくつろげるスペース、「いこいの村あしがら」の閉業に伴う新たな温浴施設などに対するニーズがみられます。



なお、市街化調整区域の本エリアの拠点化を進めるにあたり、当エリア整備に向けた諸条件や法制度の整理及び整備計画の策定を進め、計画期間内での拠点整備をめざします。

【拠点エリアの定義】

おおいゆめの里を含む周辺施設等のエリア※下記図参照

【導入する機能（イメージ）】

- ・ 飲食機能（食事処・カフェ）
- ・ 温浴施設機能
- ・ 直売・物販機能の充実化
- ・ 交流体験事業の受入窓口の充実化
- ・ おおいゆめの里エリア内の地域資源の活用及び体験プログラムの造成

■拠点整備の範囲※赤字（おおいゆめの里含む周辺施設等のエリア）



ベースマップ：Map data ©2024 Google

■実現に向けたプラン

主体\スケジュール	短期	中期	長期
町（行政）	・当エリア整備に向けた諸条件や法制度の整備及び整備計画	・拠点整備及びリニールオープン	・おおいゆめの里の自走化に向けたフォローアップ
（一社）神奈川大井の里体験観光協会	・おおいゆめの里の整備計画策定参画	・四季の里や交流体験事業との連携	・おおいゆめの里の自走化・連携
観光関連事業者・観光関連団体	・おおいゆめの里の整備計画策定参画	・おおいゆめの里を核とし観光周遊の連携充実化	※成果を踏まえ取り組み改善
町民の役割	・おおいゆめの里の利用や計画・まちづくりへの参画	・おおいゆめの里の町民利用、場の活用	※成果を踏まえ取り組み改善

※短期：2024（令和6）～2026（令和8）年度、中期：2027（令和9）～2030（令和12）年度、長期：2031（令和13）年度以降の期間と設定

●空き家・遊休施設を活用した宿泊拠点の推進

・空き家等を活用した体験・宿泊施設整備の検討

観光客の滞在拠点となる場所を充実させる手段として、宿泊機能を町内で作ることも重要な取り組みです。本町では空き家や遊休施設等の活用ができないか、施設の現況や宿泊機能への整備の可能性について調査や活用に向けた支援制度等について検討を進めていきます。

■実現に向けたプラン

主体\スケジュール	短期	中期	長期
町（行政）	・空き家・遊休施設の現況調査、活用支援の検討	・活用できる空き家・遊休施設の情報更新	※成果を踏まえ取り組み改善
（一社）神奈川大井の里体験観光協会	・空き家・遊休施設の情報提供	・空き家・遊休施設の活用	※成果を踏まえ取り組み改善
観光関連事業者・観光関連団体	・空き家・遊休施設の情報提供	・空き家・遊休施設の活用	※成果を踏まえ取り組み改善
町民の役割	・空き家・遊休施設の情報提供	・空き家・遊休施設の活用	※成果を踏まえ取り組み改善

1-2 コンテンツの磨き上げ

交流体験の提供や本町ならではの地域資源を活かした食やお土産物の開発・提供により、本町に来てよかった、出会いがあり楽しかった、また次の季節も会いにいたいと思っていただけるような付加価値の高い体験やサービスの充実を図ります。

【主な取り組み】

●地域資源を活用した特別な体験の提供の深化

・体験プログラムのブラッシュアップ事業

体験プログラムの満足度をさらに高めていくため、現在提供している体験プログラムのブラッシュアップや新たに地域資源を活用したプログラムの開発にあたり、プログラムの試行やモニターツアーの実施等の検証を進めながら充実を図ります。

・教育旅行向け体験プログラムの構築

教育旅行に対する体験プログラムは、100～200人規模の受入可能な体験プログラムを構築することが必要です。そのためには、大規模で受け入れ可能な地域資源はもちろん、大型バスを受け入れる動線や雨天時の屋内環境（体育館等）の確保が求められます。受け入れを実現するためにプログラムの造成から受入環境の充実を進めていきます。

・ハイキング・ウォーキングコースの充実化

ハイキング・ウォーキング利用者の滞在時間の延伸や満足度向上を図るため、より楽しんでいただけるためのデジタルコンテンツの開発やコース特典となる機能など新たな機能導入による充実化を図ります。

■実現に向けたプラン

主体\スケジュール	短期	中期	長期
町（行政）	・体験プログラムの磨き上げ・構築のための実証支援、環境整備 ・ハイキング・ウォーキングコースの新たな機能導入	※短期の成果を踏まえ取り組み改善	※成果を踏まえ取り組み改善
（一社）神奈川大井の里体験観光協会	・体験プログラムの磨き上げ・運営	※短期の成果を踏まえ取り組み改善	※成果を踏まえ取り組み改善
観光関連事業者・観光関連団体	・体験プログラムの磨き上げや受入環境整備の連携	※短期の成果を踏まえ取り組み改善	※成果を踏まえ取り組み改善
町民の役割	・体験プログラムの参加 ・運営側としてのサポート参画	※短期の成果を踏まえ取り組み改善	※成果を踏まえ取り組み改善

●食や特産品の充実化

・お土産や特産品の開発、ブランディング（フェイジョア・ひょうたん）

本町の特産品としてフェイジョアやひょうたんの加工品等販売を行ってきました。体験プログラムを充実させていくことに併せ、優先すべきターゲット層に魅力的な商品として磨き上げるにより、購買意欲を図ることが期待できます。そのため、既存の特産品及び新たな商品開発において、より買ってもらえるようなブランド化を進めていきます。

・大井町特産品を活かした食の機会の充実

町内で飲食の機会を増やしていくために、町内の飲食店と連携し、食事による滞在時間の延伸を図るとともに、町の食材等を活用したメニュー開発等により町内消費を促す仕組みづくりを推進します。

■実現に向けたプラン

主体\スケジュール	短期	中期	長期
町（行政）	・既存商品のブランド化（コンセプトやパッケージの見直し検討支援）	※短期の成果を踏まえ取り組み改善	※成果を踏まえ取り組み改善
（一社）神奈川大井の里体験観光協会	・お土産や特産品の開発、販売	※短期の成果を踏まえ取り組み改善	※成果を踏まえ取り組み改善
観光関連事業者・観光関連団体	・お土産や特産品の開発、販売	※短期の成果を踏まえ取り組み改善	※成果を踏まえ取り組み改善
町民の役割	・お土産、特産品の購入やレビュー参加	※短期の成果を踏まえ取り組み改善	※成果を踏まえ取り組み改善

●より満足いく過ごし方を提供する周遊滞在プランの開発

・優先すべきターゲットに訴求する滞在プランや周遊ルートの構築

観光するにあたっては、外国人や幼児・子どもでも受け入れられる場所などターゲットごとに楽しめる場所や受入環境が異なります。観光客が満足度高く一日を本町で過ごしていただくために、ターゲットごとの滞在プランや周遊コースを作るとともに、優先すべきターゲット層が楽しめる場所を増やしていくための環境整備や人気コンテンツの強化も同時に進めていきます。

・テーマごとで楽しめる周遊ルートの構築

自然景観や歴史文化財、食など、テーマに特化した情報を整理し周遊ルートを提供することで、ターゲット層への滞在の訴求を図ります。

■実現に向けたプラン

主体\スケジュール	短期	中期	長期
町（行政）	・滞在プランや周遊ルート、コンテンツの構築	・滞在プランや周遊ルートの改善更新	※成果を踏まえ取り組み改善
（一社）神奈川大井の里体験観光協会	・滞在プランや周遊ルートの構築、滞在プランの販売	・滞在プランや周遊ルートの改善更新	※成果を踏まえ取り組み改善
観光関連事業者・観光関連団体	・滞在プランや周遊ルートの構築にあたる連携・受入	・受入環境の充実化	※成果を踏まえ取り組み改善
町民の役割	・滞在プランや周遊ルートの構築にあたる連携	・構築に向け継続的な連携実施	※成果を踏まえ取り組み改善

2-1 ターゲットごとへの効果的な PR 活動

これまでの本町への来訪者はもちろん、潜在的なニーズも踏まえ、ターゲットへ効果的に訴求できるようなプロモーションや営業活動を推進します。ターゲットによって情報媒体は多様であることから、優先すべきターゲット層への注力のもと、旅マエ・旅ナカ・旅アトの情報について一貫した情報が得られるよう満足度の高い発信を進めます。

【主な取り組み】

●ファミリー層受け入れのためのPR活動

- ・ファミリー層向けの観光情報誌の制作、発信

本町に来訪している多くを占めるファミリー層向け優先すべきターゲットとし、ファミリー層にとって魅力的な体験やイベント、飲食等の情報を提供できる情報発信媒体を充実させるとともに、PR を積極的に進めます。

- ・インフルエンサーとの連携発信

SNS 等での情報発信による影響力を持つ人材と連携し、交流体験や食など本町の魅力を PR する機会の充実を進めます。特に、吉本興業所属の「大井町笑顔特派員」によるプロモーションの連携を強化し、PR 活動を推進していきます。

- ・町内イベント等との連携

「ひょうたん祭」「四季の里まつり」等町内のイベントで体験プロモーションを実施し、ファミリー層に本町の飲食店や交流体験事業を PR していきます。

■実現に向けたプラン

主体\スケジュール	短期	中期	長期
町（行政）	・ PR 媒体の制作や PR 活動の実施	・ PR 媒体のバージョンアップ	・ PR 媒体のバージョンアップ
（一社）神奈川大井の里体験観光協会	・ SNS 等の情報発信	※短期の成果を踏まえ取り組み改善	※成果を踏まえ取り組み改善
観光関連事業者・観光関連団体	・ 各社 SNS や HP での情報発信 ・ 町 PR 発信との連携	※短期の成果を踏まえ取り組み改善	※成果を踏まえ取り組み改善
町民の役割	・ 上記 PR の拡散、口コミ等	・ 上記 PR の拡散、口コミ等	・ 上記 PR の拡散、口コミ等

●町民・近隣市町へのPR活動

・大井町の歴史や里山を知ってもらう体験をする機会の創出

魅力ある地域づくりを進めるためには、町民が町の地域資源や交流体験に愛着や誇りを持ち、協働の取り組みとして推進することが重要です。そのため、町民に地域の魅力を知ってもらう機会として、本町が二千年かけて育んだ歴史・里山景観等の文化・自然資源を体験してもらう機会を創出します。

・大井町観光の町内向け広報活動の推進

本町で実施している交流体験、各拠点施設、未病改善等の情報について町民・町内事業者にも周知する機会を創出することで、本町内のファンづくりをめざします。

■実現に向けたプラン

主体\スケジュール	短期	中期	長期
町（行政）	・町民向け体験機会づくり ・定期的な広報での発信	※短期の成果を踏まえ取り組み改善	※成果を踏まえ取り組み改善
（一社）神奈川大井の里体験観光協会	・町民向け体験実施 ・里山タイムズによる情報発信	※短期の成果を踏まえ取り組み改善	※成果を踏まえ取り組み改善
観光関連事業者・観光関連団体	・情報提供、発信の連携	※短期の成果を踏まえ取り組み改善	※成果を踏まえ取り組み改善
町民の役割	・体験の参加 ・PRの拡散、口コミ等	・体験の参加 ・PRの拡散、口コミ等	・体験の参加 ・PRの拡散、口コミ等

●教育旅行誘致のためのPR活動

・首都圏の日帰り教育旅行に向けた学校受入の営業活動

日帰り教育旅行の受け入れについてもニーズがあります。首都圏をターゲットに日帰りの農業体験など、本町への誘客を推進します。

・東京神奈川への修学旅行で1日大井町の交流体験を誘致するための営業活動

関西圏、中部圏、東北圏、中四国圏など地方部から首都圏に訪れる修学旅行について、滞在日程のうち1日を本町に訪れ、交流体験活動を行ってもらえるよう近隣市町村と連携しながら営業活動に取り組みます。

■実現に向けたプラン

主体\スケジュール	短期	中期	長期
町（行政）	・ 営業活動の支援	※短期の成果を踏まえ取り組み改善	※成果を踏まえ取り組み改善
（一社）神奈川大井の里体験観光協会	・ 営業活動の実施	※短期の成果を踏まえ取り組み改善	※成果を踏まえ取り組み改善
観光関連事業者・観光関連団体	・ 営業活動の情報提供、連携	・ 営業活動の情報提供、連携	・ 営業活動の情報提供、連携
町民の役割	・ 民泊受入の推進 ※施策 3-1 と連動	・ 民泊受入の推進 ※施策 3-1 と連動	・ 民泊受入の推進 ※施策 3-1 と連動

●インバウンド層受け入れのためのPR活動

- ・ 外国人向けの情報サイトへの登録、情報誌の活用、SNS の活用

本町の交流体験活動に関心を持ちそうな外国人向けの情報発信を強化するため、情報サイトへの登録や情報誌を活用していきます。

- ・ プライベートツアーによる交流体験の開発・発信

外国人の富裕層向けに本町の交流体験活動を訴求するためのプライベートツアー等の開発・発信を図ります。

■実現に向けたプラン

主体\スケジュール	短期	中期	長期
町（行政）	・ PR 媒体の制作や PR 活動の実施	・ PR 媒体のバージョンアップ	・ PR 媒体のバージョンアップ
（一社）神奈川大井の里体験観光協会	・ 多言語化対応の充実化 ・ SNS 等の情報発信	※短期の成果を踏まえ取り組み改善	※成果を踏まえ取り組み改善
観光関連事業者・観光関連団体	・ 各社 SNS や HP での多言語化対応 ・ 町 PR 発信との連携	※短期の成果を踏まえ取り組み改善	※成果を踏まえ取り組み改善
町民の役割	・ 上記 PR の拡散、口コミ等	・ 上記 PR の拡散、口コミ等	・ 上記 PR の拡散、口コミ等

2-2 第2のふるさとづくり

働き方・住み方に関する意識が変化し、密を避け、自然環境に触れる旅へのニーズなどが高まり、また、大都市にはふるさとを持たない若者が増え、田舎にあこがれを持って関わりを求める動きも存在しています。こうした新しい動きも踏まえ、いわば「第2のふるさと」として、「何度も地域に通う旅、帰る旅」というスタイルを推進・定着させ、関係人口の創出と移住・定住の促進につなげ、本町の人口対策と観光産業の担い手発掘への寄与を狙います。

【主な取り組み】

●関係人口づくりを推進する PR 活動

・新しいライフスタイルの提供の機会づくり

何度も本町に通い、週末で農業する、週末で自然体験や民泊を体験するといった新しいライフスタイルを構築・提案していきます。

・地域課題解決の取り組みに関心の高い層へのマッチング

地域に関わりたい、もしくは自然体験や地域課題解決のフィールドを探している企業に対して、地域の課題を解決できるワーケーション事業や企業研修事業を検討・構築していきます。

■実現に向けたプラン

主体\スケジュール	短期	中期	長期
町（行政）	・ PR 活動の実施	※短期の成果を踏まえ取り組み改善	※成果を踏まえ取り組み改善
（一社）神奈川大井の里体験観光協会	・ PR 活動の実施、受入	※短期の成果を踏まえ取り組み改善	※成果を踏まえ取り組み改善
観光関連事業者・観光関連団体	・ 情報提供、発信の連携	※短期の成果を踏まえ取り組み改善	※成果を踏まえ取り組み改善
町民の役割	・ PR の拡散、口コミ等	・ PR の拡散、口コミ等	・ PR の拡散、口コミ等

●移住・定住促進のための PR 活動

・お試し住宅等の整備拡大

自然体験や農業体験、飲食などの観光事業に来訪した観光客にさらなる本町の魅力を知ってもらい、ファンになってもらうための拠点として、お試し住宅やシェアハウス等の整備拡大をめざします。

・移住定住プロモーション事業

観光客に対して、移住・定住につなげていくためのプロモーション事業を進めていきます。

■実現に向けたプラン

主体\スケジュール	短期	中期	長期
町（行政）	・お試し移住の整備 拡大 ・プロモーション事 業強化	※短期の成果を踏ま え取り組み改善	※成果を踏まえ取り 組み改善
（一社）神奈川大井 の里体験観光協会	・移住促進 PR 活動 の連携	※短期の成果を踏ま え取り組み改善	※成果を踏まえ取り 組み改善
観光関連事業者・観 光関連団体	・情報提供、発信の 連携	※短期の成果を踏ま え取り組み改善	※成果を踏まえ取り 組み改善
町民の役割	・PR の拡散、口コ ミ等	・PR の拡散、口コ ミ等	・PR の拡散、口コ ミ等

2-3 マーケティング面の強化

ファンの拡大、ターゲットに合わせたプロモーションを進めていくにあたっては、マーケットニーズをとらえたサービスや受入環境の整備が必要です。そのためには、観光客のニーズをしっかりとキャッチできる仕組みとして、マーケティングの調査分析手法を用いて継続的にモニタリングできる仕組みの導入と運用を進めていきます。

【主な取り組み】

●継続的にニーズ調査できる仕組みの導入

・デジタルを活用したアンケート調査システム導入

来訪者の動向を把握するため、効率的に継続的なデータを収集・分析を行う仕組みの導入を検討します。

・テストマーケティングの実施

本町の観光商品のニーズを検証し、提供する商品の質を評価してもらうためのテストマーケティングを継続的に開催していきます。

■実現に向けたプラン

主体\スケジュール	短期	中期	長期
町（行政）	・ 調査システム導入 ・ テストマーケティングの実施	※短期の成果を踏まえ取り組み改善	※成果を踏まえ取り組み改善
（一社）神奈川大井の里体験観光協会	・ 調査の実施連携 ・ 情報の共有、活用	※短期の成果を踏まえ取り組み改善	※成果を踏まえ取り組み改善
観光関連事業者・観光関連団体	・ 調査の実施連携 ・ 情報の共有、活用	※短期の成果を踏まえ取り組み改善	※成果を踏まえ取り組み改善
町民の役割	・ 情報の共有、活用	・ 情報の共有、活用	・ 情報の共有、活用

●観光客情報の共有と分析

・観光協会、観光事業者の顧客層のシェア

（一社）神奈川大井の里体験観光協会や他地域事業者について、それぞれに来訪した観光客の顧客層の情報を共有・分析することで、町内で複数の体験を実施し、滞在時間を伸ばしていただけるような仕組みづくりを図ります。

■実現に向けたプラン

主体\スケジュール	短期	中期	長期
町（行政）	・ 顧客情報の共有シェアの仕組みづくり検討	※短期の成果を踏まえ取り組み改善 ・ 顧客情報のシェアの実践支援	※成果を踏まえ取り組み改善
（一社）神奈川大井の里体験観光協会	・ 情報の共有、活用 ・ 顧客情報のシェアの仕組みづくり検討	※短期の成果を踏まえ取り組み改善 ・ 顧客情報のシェアの実践	※成果を踏まえ取り組み改善
観光関連事業者・観光関連団体	・ 情報の共有、活用 ・ 顧客情報のシェアの仕組みづくり検討	※短期の成果を踏まえ取り組み改善 ・ 顧客情報のシェアの実践	※成果を踏まえ取り組み改善
町民の役割	・ 情報の共有、活用	・ 情報の共有、活用	・ 情報の共有、活用

3-1 観光人材の育成

本町の観光を担う人材を増やしていくために、観光分野に関する理解や知見を深めていくための機会や活躍する機会の場をつくります。

【主な取り組み】

●NEAL リーダーの育成

・NEAL 講習会の実施

安心・安全な体験指導を実践していくための NEAL 講習会（自然体験活動指導者養成講習会）を継続的に開催・運営していきます。

・NEAL リーダーとの定期的な交流・研修の場づくり

講習を終了した NEAL リーダー（自然体験活動指導者）に対する継続的なフォローアップとして、それぞれの交流や体験のスキルを向上させる研修の場づくりを行います。

■実現に向けたプラン

主体\スケジュール	短期	中期	長期
町（行政）	・講習会の開催	※短期の成果を踏まえ取り組み改善 ・講習会の開催	※成果を踏まえ取り組み改善
（一社）神奈川大井の里体験観光協会	・講習会への運営協力	※短期の成果を踏まえ取り組み改善 ・講習会への運営協力	※成果を踏まえ取り組み改善
観光関連事業者・観光関連団体	・講習会への協力	※短期の成果を踏まえ取り組み改善 ・講習会への協力	※成果を踏まえ取り組み改善
町民の役割	・NEAL リーダーとしての参加、周知	・NEAL リーダーとしての参加、周知	・NEAL リーダーとしての参加、周知 ※成果を踏まえ取り組み改善

●民泊家庭の推進

・体験民泊説明会、研修会の開催

民泊の受入家庭を増やすため、民泊についての情報を紹介する説明会や、民泊の受入時における調理や体験などのノウハウを指導・共有するための研修会を開催します。

・民泊申請支援

住宅宿泊事業法に基づく、各家庭の民泊申請についての支援を行います。

■実現に向けたプラン

主体\スケジュール	短期	中期	長期
町（行政）	・ 申請支援、民泊説明会の開催	※短期の成果を踏まえ取り組み改善	※成果を踏まえ取り組み改善
（一社）神奈川大井の里体験観光協会	・ 民泊説明会の運営協力	・ 民泊説明会の運営協力 ※短期の成果を踏まえ取り組み改善	※成果を踏まえ取り組み改善
観光関連事業者・観光関連団体	・ 民泊説明会への参加	・ 民泊説明会への参加 ※短期の成果を踏まえ取り組み改善	※成果を踏まえ取り組み改善
町民の役割	・ 民泊説明会への参加、民泊受入	・ 民泊説明会への参加、民泊受入	※成果を踏まえ取り組み改善 ・ 民泊説明会への参加、民泊受入

●農業生産者・飲食等の事業者支援〔販路拡大や起業創業〕

- ・農業関心層の受入推進・飲食事業者との連携の推進
(夢おいファーマー制度、農業者ネットワークの活用)

本町で推進している農業体験事業等の観光事業を、農業者の営農活動におけるメリットに結び付けていくため、新規就農者や既存の農業者との継続的な情報交換や飲食店等事業所とのマッチングの場を通じて、農業関係者との連携を図ります。

- ・空き家・空き店舗等の活用推進

観光事業において、空き家や空き店舗の活用を図ることで、観光事業の推進と地域課題解決の両輪をめざします。

■実現に向けたプラン

主体\スケジュール	短期	中期	長期
町（行政）	・農業関心層とのマッチング取り組み ・空き家空き店舗の情報集収集・活用方策の検討及びモデル実施	・農業関心層のマッチング強化 ・空き家空き店舗の情報更新・活用	※成果を踏まえ取り組み改善
（一社）神奈川大井の里体験観光協会	・交流体験事業との連携	※短期の成果を踏まえ取り組み改善	※成果を踏まえ取り組み改善
観光関連事業者・観光関連団体	・卸しや販売等による連携強化 ・空き店舗の情報提供、活用	※短期の成果を踏まえ取り組み改善	※成果を踏まえ取り組み改善
町民の役割	・空き家空き店舗の情報提供、受入	・空き家空き店舗の情報提供、受入	・空き家空き店舗の情報提供、受入

●スキルアップ研修会の開催

・観光分野の知見・マーケティングスキルを高める研修会の開催

地域が一体となって観光地域づくりを進めるために、各主体のスキルやノウハウ向上を目的として、観光専門家等による勉強会、インバウンド受入研修、SNS等プロモーション研修等を進めます。

■実現に向けたプラン

主体\スケジュール	短期	中期	長期
町（行政）	・研修会の開催企画検討	※短期の成果を踏まえ取り組み改善	※成果を踏まえ取り組み改善
（一社）神奈川大井の里体験観光協会	・研修会の運営協力、参加	※短期の成果を踏まえ取り組み改善	※成果を踏まえ取り組み改善
観光関連事業者・観光関連団体	・研修会への参加	※短期の成果を踏まえ取り組み改善	※成果を踏まえ取り組み改善
町民の役割	・研修会への参加	・研修会への参加	・研修会への参加

3-2 各種連携の強化

地域で体験を受け入れ、満足度を高めていくためには一個人一事業者の力だけでなく、地域住民や事業者、時には地域外の企業のノウハウも活かして、一体となって地域づくりを進めていくことが大切です。多様な観光客を受け入れられるようにするために、町、民間、地域住民等、各主体が強みを活かして連携することで、受入環境の充実を図ります。

【主な取り組み】

●受入体制の充実化

- ・教育旅行等の100人以上の団体を受け入れるためのハード・ソフト整備

100人以上の大規模な団体の受け入れにあたり、バスのルートやインフラ確保などの課題を明らかにしながら、町民・事業者等が連携して解決をめざしていきます。

- ・インバウンド向けの多言語表示やWi-Fi環境の整備の充実化

インバウンド受け入れに向け、多言語表示やWi-Fi環境、ガイド等の受入環境を整備していきます。

■実現に向けたプラン

主体\スケジュール	短期	中期	長期
町（行政）	・インフラ整備に向けた方向性検討	・インフラ整備に向けた実践	※成果を踏まえ取り組み改善
（一社）神奈川大井の里体験観光協会	・方向性の洗い出し支援	・実践の支援	※成果を踏まえ取り組み改善
観光関連事業者・観光関連団体	・方向性の洗い出し支援	・実践の支援	※成果を踏まえ取り組み改善
町民の役割	・方向性の洗い出し支援	・実践の支援	※成果を踏まえ取り組み改善

●二次交通の充実化

・レンタサイクルによる周遊機能の強化

町内の移動におけるの利便性を高めるため、レンタサイクルの導入・活用を検討し、周遊性を強化していきます。

・誰もがアクセスできる公共交通の環境整備

誰もがアクセスできる公共交通の環境整備に取り組み、来訪者の利便性の確保に努めます。

■実現に向けたプラン

主体\スケジュール	短期	中期	長期
町（行政）	・ 充実化に向けた方策検討	・ 方策実践	※成果を踏まえ取り組み改善
（一社）神奈川大井の里体験観光協会	・ 方策検討に係る助言	・ 方策検討に係る助言	※成果を踏まえ取り組み改善
観光関連事業者・観光関連団体	・ 方策検討に係る助言	・ 方策検討に係る助言	※成果を踏まえ取り組み改善
町民の役割	・ 方策検討に係る助言	・ 方策検討に係る助言	※成果を踏まえ取り組み改善

●事業者連携の強化

・食やお土産・特産品等の飲食・店舗との連携

飲食提供やお土産・特産品について、町内の消費につなげるためのメニュー紹介、開発などを継続的に支援していきます。

・町内外問わず、大井町観光振興につながる異業種連携の推進

大井町観光振興につなげるための新たなメニュー開発などを図るため、町内外を問わず異業種の連携を推進していきます。

・農業者・地域住民等における地域課題解決に向けた連携

本町の交流体験事業は、地域の課題解決につながる体験を理念とすることから、地域課題に関する情報について把握し、その解決に向けた地域資源の活用が重要であると考えます。町内の耕作放棄地や放棄竹林等の地域課題を観光資源に活用するため、耕作放棄地等の現況把握を進めるとともに、町民・事業者の連携により、耕作放棄地等の活用策の検討を推進していきます。

■実現に向けたプラン

主体\スケジュール	短期	中期	長期
町（行政）	・地域課題の把握、共有	※短期の成果を踏まえ取り組み改善	※成果を踏まえ取り組み改善
（一社）神奈川大井の里体験観光協会	・体験プログラム化の検討	※短期の成果を踏まえ取り組み改善	※成果を踏まえ取り組み改善
観光関連事業者・観光関連団体	・地域課題の情報提供、連携	※短期の成果を踏まえ取り組み改善	※成果を踏まえ取り組み改善
町民の役割	・地域課題の情報提供、連携	・地域課題の情報提供、連携	・地域課題の情報提供、連携

●産学連携の推進

- ・教育機関と連携した地域づくり（学生の体験参加、農業・地学等の研究での連携）

本町に来訪し、活動している教育機関と連携し、学生の体験参加や交流体験のメニュー開発、農業・地学等の研究を通じて地域づくり活動を推進していきます。

■実現に向けたプラン

主体\スケジュール	短期	中期	長期
町（行政）	・産学連携の企画支援	・産学連携の企画支援	※成果を踏まえ取り組み改善
（一社）神奈川大井の里体験観光協会	・産学連携の実践	・産学連携の実践	※成果を踏まえ取り組み改善
観光関連事業者・観光関連団体	・産学連携の実践	・産学連携の実践	※成果を踏まえ取り組み改善
町民の役割	・産学連携の支援	・産学連携の支援	※成果を踏まえ取り組み改善

3-3 県西地域での広域連携強化

【主な取り組み】

●宿泊を含む滞在型観光の連携

・宿泊施設を有する近隣市町との周遊滞在プランの構築

宿泊施設を有する近隣市町との周遊滞在プランを構築し、事業展開することで県西地域での一体となった受入体制の構築を図ります。

・宿泊と体験をセットにしたパッケージや周遊プランの提案

本町の提供する里山体験での受け入れに適した宿泊環境を整え、宿泊と体験をセットにしたパッケージや周遊プランを推進します。

■実現に向けたプラン

主体\スケジュール	短期	中期	長期
町（行政）	・広域連携事業のきっかけづくり	・プランのブラッシュアップ、広域連携事業の実践	※成果を踏まえ取り組み改善
（一社）神奈川大井の里体験観光協会	・プラン構築の検討	・プランのブラッシュアップ、広域連携事業の実践	※成果を踏まえ取り組み改善
観光関連事業者・観光関連団体	・プラン構築の検討	・プラン構築の支援	※成果を踏まえ取り組み改善
町民の役割	・プラン構築の支援	・プラン構築の支援	※成果を踏まえ取り組み改善

●インバウンド誘客に向けた連携

・インバウンド富裕層等へのルート開発

小田原・箱根に訪れる日本の里山体験を希望するインバウンド富裕層等に対するルート開発、紹介を行い、広域連携によるインバウンド誘客につなげます。

・酒蔵をテーマにしたインバウンドルート開発

日本文化としてニーズの高い、本町にある酒蔵をテーマにしたインバウンドルートの開発等、観光商品の造成・販売をめざします。

■実現に向けたプラン

主体\スケジュール	短期	中期	長期
町（行政）	・インバウンド広域連携の検討 ・インバウンドの受け入れに向けた情報入手・学習	・インバウンド広域連携・受け入れの支援 ※短期の成果を踏まえ取り組み改善	※成果を踏まえ取り組み改善
（一社）神奈川大井の里体験観光協会	・インバウンド広域連携の検討 ・インバウンドの受け入れに向けた情報入手・学習	・インバウンド広域連携・受け入れの実践 ※短期の成果を踏まえ取り組み改善	※成果を踏まえ取り組み改善
観光関連事業者・観光関連団体	・インバウンド広域連携の検討 ・インバウンドの受け入れに向けた情報入手・学習	・インバウンド広域連携・受け入れの実践 ※短期の成果を踏まえ取り組み改善	※成果を踏まえ取り組み改善
町民の役割	・インバウンドの受け入れに向けた情報入手・学習	・インバウンド広域連携・受け入れの実践 ※短期の成果を踏まえ取り組み改善	※成果を踏まえ取り組み改善

●他地域との情報共有・連携推進

・他地域における観光団体との情報共有・連携推進

観光事業の受け入れにあたり、フィールドの連携や情報の共有等を行い、地域間連携を推進します。

■実現に向けたプラン

主体\スケジュール	短期	中期	長期
町（行政）	・情報共有の場の創出	・情報共有の場の創出	※成果を踏まえ取り組み改善
（一社）神奈川大井の里体験観光協会	・情報共有の実践	・情報共有の実践	※成果を踏まえ取り組み改善
観光関連事業者・観光関連団体	・情報共有の実践	・情報共有の実践	※成果を踏まえ取り組み改善
町民の役割	・SNS 等での情報発信	・SNS 等での情報発信	※成果を踏まえ取り組み改善

第5章 観光推進体制

1. 推進体制

今後、本計画のめざす姿を実現していくためには、第4章で述べた具体的な取り組みを町全体で進めていくことが重要です。そのためには、町民・事業者・行政などが一体となり、それぞれが役割と責任を担いながら、互いの理解を深め、連携し、情報共有していくことが観光推進体制の強化につながります。町民・事業者・行政それぞれの役割のもと、官民協働と地域連携を意識し、「町民や事業者」「(一社) 神奈川大井の里体験観光協会」「大井町」が協力し、地域一体で観光推進体制の強化に取り組みます。

■各主体の役割

各主体	役割
町（行政）	観光施設の整備など、観光振興を図る上で必要となるインフラ整備を推進します。また、町の関係部局間での連携を図るとともに、国・県をはじめ、関係市町村や観光関連団体、民間事業者、町民との協働による取り組みや調整を行い、総合計画や本計画に基づく施策を推進します。併せて、各主体が取り組む事業を支援し、観光による地域の活性化を図る役割を担います。
(一社) 神奈川大井の里体験観光協会	観光振興の中心的な役割を担う民間団体として、会員や関連団体等との連携を図りながら、まちの賑わいを創出するため、交流体験事業を核に各種事業を実施します。また、観光情報を収集のうえ、WEB サイトや SNS で発信するとともに、積極的な観光プロモーションを実施する役割を担います。
観光関連事業者・観光関連団体	地域経済の主役である農業、商業、工業、NPO 法人を含めた団体などの観光関連団体の取り組みが重要です。観光産業の担い手として、各自が持つノウハウの質の向上に取り組むとともに、行政や観光関連団体、事業者間との連携強化により、本町の魅力向上に努める役割を担います。
町民の役割	本町を訪れた方に満足していただくためには、町民一人ひとりが温かく迎え入れ、本町の魅力を伝えることが重要です。そのためには、町民それぞれの立場で郷土に誇りと愛着を持ち、観光まちづくりに参加・協力をすることが求められます。

2. 進捗管理の仕組み

本計画のめざす姿を実現するために、計画に基づく事業推進における進捗管理を定期的に行う必要があります。PDCA サイクルのもとで、計画を実行し、それを進捗評価・改善、そして必要に応じて計画を見直すプロセスが求められます。ウィズコロナ・アフターコロナを通じて多様な旅のスタイルの変化が生じています。また、これら以外にも、様々な要因から内外の情勢や環境が変化すると考えられることから、計画期間中であっても必要に応じて計画の見直しを行っていきます。

■PDCA サイクルイメージ

目標数値を設定した計画策定
■成果検証・施策見直しを
ふまえた計画の見直し



計画に基づく事業推進
■行政での事業推進
■町民・事業者などでの
事業推進

検証結果を踏まえて
必要な事業を検討、
必要に応じて、計画を改定
■行政での施策見直し
■観光事業者などと
の協議による事業見直し

目標数値の達成度や進捗状況の
把握を通じて、計画の成果検証
■目標数値の確認
■ロードマップの検証
■町民・観光事業者などからの
意見聴取

本計画の進捗管理については、学識有識者や観光事業者、各種団体などで構成する会議「大井町観光振興推進委員会（仮称）」を組織して開催することとします。本会議は、毎年2回程度開催し、本計画の進捗管理及び評価を行います。また、本計画は多様な分野での取り組みが求められるため、「庁内連携会議」により指標や施策の進捗を関係部局と調整を行いながら進めます。

■進捗管理のための会議体

会議体	役割
大井町観光振興推進委員会（仮称）	観光施策に関わる町民、事業者、行政などの機関が連携し、観光振興に必要な取り組みを一元的に管理する体制を整備することで、本計画の進行管理や施策の評価をはじめ、観光ニーズの変化などに対応します。
庁内連携会議	総合的な観光振興の推進やそれらに関する関係部局間との調整などを行い、進行管理シートを作成し、指標と施策を関連付けるほか、施策の進捗を確認するとともに、課題を整理し、施策や事業の見直しを検討します。

資料編

1. 計画策定の経過

年	月日	会議名及び議題など
2023 年	10 月 23 日（月）	【第 1 回大井町観光振興基本計画策定委員会】 ・観光振興基本計画策定の趣旨及び計画の方向性 ・計画策定の進め方
2024 年	1 月 15 日（月）	【第 2 回大井町観光振興基本計画策定委員会】 ・大井町観光振興基本計画（骨子）
	3 月 11（月）～ 25 日（月）	【パブリックコメント実施】
	3 月 28 日（木）	【第 3 回大井町観光振興基本計画策定委員会】 ・大井町観光振興基本計画最終案について

2. 大井町観光振興基本計画策定委員会（委員名簿）

No.	氏名	役職
1	井上仲治	大井町副町長
2	遠藤晃弘	東海大学観光学部観光学科講師
3	夏苺静男	一般社団法人神奈川大井の里体験観光協会代表理事
4	諸星治哉	神奈川県県西地域県西総合センター企画調整課兼商工観光課長
5	門松 勉	曽我地区代表自治会長、西大井地区自治会代表自治会長
6	香川弘光	相和地区代表自治会長
7	武井嘉代子	金田地区代表自治会長
8	柳川重男	大井町農業委員会会長

大井町観光振興基本計画

(発行) 大井町地域振興課
〒258-8501 神奈川県足柄上郡大井町金子 1995
電話番号：0465-85-5013 (直通)
